

～JLA e-Lifesaving～

<https://elearning.jla-lifesaving.or.jp/>



～JLA e-Lifesaving 解説動画～

<https://youtu.be/p8Am1f5xsDc>



31,895ユーザー 265,958 PV(ページビュー) ※2021年3月時点

1893回視聴 ※2021年3月時点



夏休みの課題に



水泳授業の前に



夏のレジャー前に

【はじめに：謝辞】

e-Lifesavingは2020年度のコロナ禍において、各学校で水泳授業が実施されない状況の中、ICT教材として様々な展開の可能性を生み出すことができました。今後もオンラインセミナーによる運用や、水泳授業との連動含め、大いに活用が求められると思います。さらには、これから益々の水辺の活動再開とともに、安全を学び、事故予防に働きかける役割は大きいと考えています。多大なるご支援に対し、衷心より御礼申し上げますとともに、2020年度の制作及び展開について以下の通りご報告申し上げます。



▼PV 265,958

▼ユーザー 31,895



プールの代替授業



教員への研修



学校の全体集会

※2021年3月時点

1, e-Lifesaving に関する情報発信

1-1 YouTube制作、発信

① JLA e-Lifesavingごあいさつ <https://youtu.be/t32cWpiNefk>



214回視聴

② JLA e-Lifesaving 学校編 https://youtu.be/dDVqa1qQp_U



386回視聴

③ JLA e-Lifesaving お家編 <https://youtu.be/wd9T6wAoGHw>



229回視聴

④ JLA e-Lifesaving 友達編 <https://youtu.be/I6xSYF-w6TA>



141回視聴

1, e-Lifesaving に関する情報発信

1-2 PRESS RELEASE

PRESS RELEASE
 公益財団法人 日本ライフセービング協会
 2020年4月9日

報道・関係者各位

守ろう！いのち 学び合おう！水辺の安全 Swim & Survive

2020年 4月9日
JLA e-Lifesaving サイト オープン
<https://elearning.jla-lifesaving.or.jp/>




パソコン・タブレット端末とネットワーク環境があれば、学校で、自宅で、動画を見たり、クイズに答えて、どこでもWater Safetyが学べます

公益財団法人日本ライフセービング協会（東京都港区新橋2-1-18、JLA 理事 長入谷拓哉）は、子どもたちが水辺の事故防止の心構えや、安全のための知識と技能を身に付け、楽しく活動できることを願い、この教材を制作しました。小学校・中学校の新学習指導要領に沿った「水泳運動の心得」や「安全確保につながる運動」、「水辺の事故防止に関する心得」などへの実践的理解を深めるような構成となっています。主に学校教育において、電子黒板やPC・タブレット端末等を使用し、主体的・対話的な学びを促すことをねらいとしています。プール活動や体験活動の事前指導、総合的な学習の時間など、水辺の安全教育に幅広くご利用下さい。

公益財団法人 日本ライフセービング協会
 副理事長・ライフセービング教育本部 松本 貴行



水辺のどんなところがあぶないのかな？

水の中で体はどうなるのかな？



みくみん

もしもお友達が水に落ちてしまったらどうすればいいのかな？



まらちみん

水に入らないで助ける方法があるのかしら？

どうやってライフジャケットを正しく着るのかしら？

制作協力：学研プラス



日本財団助成事業
 JLA e-Lifesaving ～Swim&Survive～は子ども達への水辺の安全ICT教育プログラムとして、日本財団（<https://www.nippon-foundation.or.jp/>）の助成により開発されました。



JLAから子ども達に、自分でできる水辺の安全対策を伝えたい
 取材お申込・お問い合わせ
 日本ライフセービング協会 E-mail: press@jla.or.jp
 ●4/1現在テレワーク推奨期間につき取材お申し込みはメールでお願いいたします。

水辺の事故ゼロをめざして
 日本ライフセービング協会

PRESS RELEASE
 公益財団法人 日本ライフセービング協会
 2020年4月9日

e-Lifesaving
 トップページ <https://elearning.jla-lifesaving.or.jp/>



プールに入る前の注意事項などをイラストを見ながら事前学習

海でのドラマを見ながら、水辺の危険や、もしもの時の対処を考える

実技の前に、助かる方法、助ける方法を動画で確認

クイズに答えてWater Safetyを学べる

JLAサイト
 トップページからもリンクしています <https://jla-lifesaving.or.jp/>



知ってほしいWater Safety



水辺の事故ゼロをめざして
 日本ライフセービング協会


1, e-Lifesaving に関する情報発信

1-3 活用促進の根拠を示す要旨

「要旨」 **令和2年 夏期における水難の概況**
警察庁生活安全局生活安全企画課より抜粋

令和2年夏期(7～8月の2か月間)における水難

- ✓ 発生件数 **504件** (前年対比 **+43件**)
- ✓ 水難者 **616人** (前年対比 **+22人**)
- ✓ うち死者・行方不明者 262人 (前年対比 **+23人**)
 - 海: **114人** <<-7>>
 - 河川**112人** <<+20>>
 - 湖沼池**11人** <<+1>>
 - 用水路**20人** <<+11>>
 - プール**2人** <<-3>>/その他**3人** <<+1>> ※



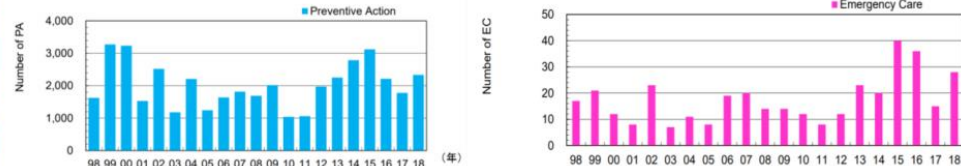

このうち、中学生以下の子どもは

- ✓ 発生件数 **※60件** ※子どもの水難発生件数は、水難者が子どもだけの場合。
- ✓ 水難者 **101人** うち死者・行方不明者 **16人** (前年対比 **+2人**)

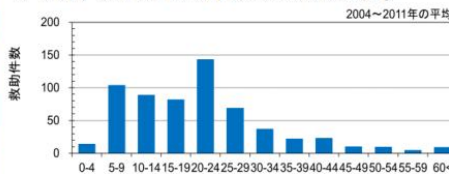
過去5年間の夏期における水難発生状況を見ると、発生件数、水難者数とも平成28年を境に減少していたが、**今年は増加に転じた。**

→来夏に向けた『**溺水事故予防の具体的な発信、WS教育が必要**』

ライフセーバーによる救助の実態 <<年間2,000～3,000人>>

海水浴場における年齢別の救助人数によると、20歳から24歳が一番多い。**小学生の年齢期から非常に増える傾向がある。**水に慣れてきた頃からは、大人による十分な注意が必要。



レスキューの自然的要因 (2013～2018年の平均)

要因	人数	割合
離岸流	1004	46%
風	692	32%
沿岸流	196	9%
波	115	5%
地形	172	8%

レスキューの人的要因 (2013～2018年の平均)

要因	人数	割合
泳力不足	986	61%
疲労	300	18%
飲酒	128	8%
パニック	201	12%
けいれん	9	1%

「知識」の理解を基に「技能」を身に付け、「技能」を身に付けることで一層のその「理解」を深める




守ろう!のち 学び合おう! 水辺の安全 Swim & Survive

e-Lifesaving

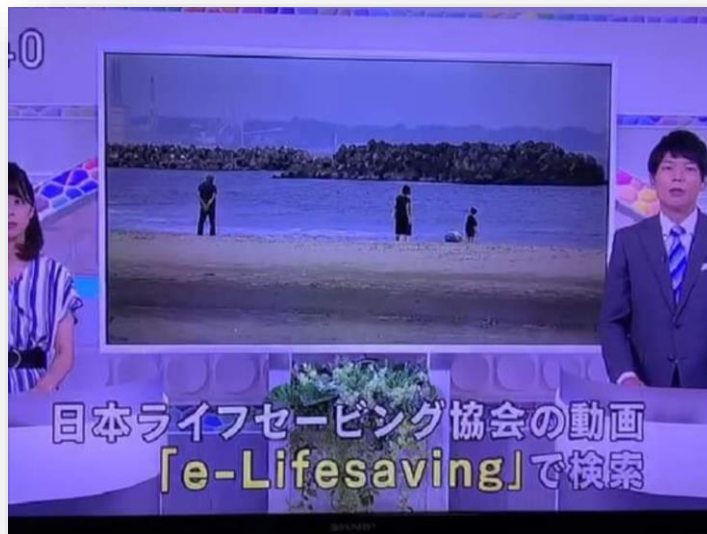
命を守り合うための学び ～自助、共助へ～



ICTの活用によって「主体的・対話的な深い学び」を目指すアクティブ・ラーニングも可能

1, e-Lifesaving に関する情報発信

1-4 各種メディア



NHKニュース



読売KODOMO新聞



ビーパル 8月号

～今こそ、水辺の安全教育に焦点を～

今年度は小学校の新しい学習指導要領が全面実施されます。「水泳領域」では高学年に「安全確保につながる運動」が新設されたことは、命を守る行動（SWIM & SURVIVE）を学校で具体的に学ぶという大きな転換を意味します。日本ライフセービング協会は、夏休みを前に控えた子ども達に対し、水辺の楽しさや安全に関する学びに焦点を絞ることが重要と考えています。



NHKシブ5時



神奈川新聞

1, e-Lifesaving に関する情報発信

1-5 教育機関への周知①【文部科学省】



動画等

- おうちで学ぼう！NHK for School(NHK)
スマートフォン向けアプリあり
- 京都教育大学公式YouTube kyokyochannel

- ・長野県教育委員会
- ・群馬県教育委員会
- ・世田谷区教育委員会

○守ろう！いのち 学び合おう！水辺の安全(公益財団法人日本ライフセービング協会) NEW

ワークシート等

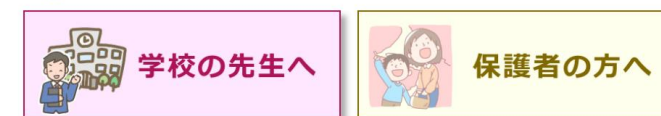
- 多様な動きをつくる運動(遊び)パンフレット(文部科学省) [1 \(PDF:1386KB\)](#) [2 \(PDF:1408KB\)](#)
- わたしの健康(小学校5年生用)(文部科学省)
- 朝日新聞 放課後のしーと
- 東京学芸大学との共同研究から生まれた低学年むけのあそびのプリントです。大人ガイドがついて、ジャンルが揃っています。
- 神奈川県教育委員会

https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/index_00001.htm

学校の教科等を学ぶ



学校の先生・保護者が使えるリンク集



● 小学校 各教科等

教科(きょうか)を えらびましょう



● 中学校 各教科等

教科等を選びましょう



1, e-Lifesaving に関する情報発信

1-5 教育機関への周知②

2020 SUMMER 神奈川の海での遊泳はひかえましょう
どこでも・いつでも・だれでも学べる
ライフセービング

QRコード
e-ライフセービング
学校の先生方へ
<https://elearning.jla.lifesaving.or.jp/>

小学校・中学校の新学習指導要領に追い「水泳運動の心得」や「安全確保につながる運動」、「水辺の事故防止に関する心得」などを実践的理解を深められるように構成されています。主に学校教育において、電子黒板やPC・タブレット端末等を使用し、主体的・対話的な学びを促すことをねらいとしています。プール活動や体験活動の事前指導、総合的な学習の時間など、水辺の安全教育に幅広くご活用下さい。

QRコード
ライフセービングからた
保護者の皆さまへ
<https://jla-lifesaving.or.jp/news/678/>

水辺に関する安全について、子どもたちに伝えたい内容の一部をカルタにしました。それぞれの札に関連する知識を大人と子どもと一緒に遊びながら伝えることで、より深い学びになります。カラフルでかわいらしいイラストのカルタで楽しく遊びながら、水辺に関する安全について学んでください。WEBサイトからダウンロードして作成いただけます。

ライフセービング 水辺の事故防止の総務
公益財団法人日本ライフセービング協会
〒105-0013 東京都港区赤坂南2-18 トップビル
TEL:03-3459-1445 (平日 12:00-18:00) info@jla.jp

神奈川県内の
ライフセービングについて
特定非営利活動法人神奈川県ライフセービング協会
〒251-0038 神奈川県横浜市中区船場3-17-1
TEL: 0466-60-2212 http://lifesaving.na.jp/

神奈川県
土警編研 河川下水道課特別指導官
なごきグループ

このリーフレットは水辺の事故防止に向けて神奈川県と公益財団法人日本ライフセービング協会が作成しました。 2020年7月

今こそ水辺の安全教育に焦点を

守ろう!いのち
学び合おう!水辺の安全

「安全確保につながる運動」

0:59 / 18:05

1893回視聴

※2021年3月時点

10/9(金)実施 保体「研修会」-ICTを活用した水辺の安全教育と、コロナ禍におけるBLS教育の在り方-

2020-09-03

— 申込受付は締め切りました —

芸術体育系教科研究会（保健体育）「研修会」のご案内

～ICTを活用した水辺の安全教育と、コロナ禍におけるBLS教育の在り方～

初秋の候 先生方におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

今夏における水の事故は、コロナ禍における様々な要因から、残念ながら増加傾向にありました。

各学校におかれましても、十分な水泳授業が実施できない状況にあったのではないのでしょうか。生徒の健康や安全を確保する上で、水泳運動の心得や、水辺の事故防止に関する知識と技能を身に付けさせることは、学習指導要領にも明示されています。水泳授業はそれに最も関わりが深い分野ではありますが、総合的な学習の時間や道徳、特別活動などにおいても、水辺の安全を伝えることは有効です。来夏に向け、どなたでも生徒とともに実践的な水辺の安全を考え、学ぶことのできる無料のICT教材（制作：日本ライフセービング協会、制作協力：学研みらい）を用いた学習方法を紹介致します。

さらには例年実施している心臓蘇生の内容も踏まえ、今回は『コロナ禍におけるBLS（一次救命処置）教育の在り方』についてご説明致します。

どの教科の先生方にも広くご参加いただける内容になると存じます。感染防止の観点に加え、新型コロナウイルスへの対応により、負担が増している教育現場にある先生方にとっても、移動の不便なくご参加いただけるよう今回はオンラインでの実施と致しました。初任者の方も含め、多くの先生方のご参加をお待ちしております。

記

1. 日 時 令和2年10月9日（金）17:00～18:30（ログイン受付16:45～）

2. 会 場 オンライン Zoomミーティングにて実施

3. 内 容

① ICTを活用した水辺の安全講習（40分）

② コロナ禍におけるBLS教育の在り方（40分）

※途中5分休憩あり。いずれも質疑応答含む。

4. 講 師 松本 貴行

1、神奈川県との包括協定 ※右図チラシ配布

- ✓ 県下小学校 855校
- ✓ 県下中学校 410校

2、教員や指導員へ向けた研修動画配信

- ✓ 全国の47都道府県教育委員会へ

3、私学教員へ向けた研修会の実施

- ✓ 東京都私学教育研究所主催 参加者11名
<https://k.tokyoshigaku.com/seminar/seminar-kenshu/seminar-kenshu-geijutsu/3689/>

1, e-Lifesaving に関する情報発信

1-6 海上保安庁からの発信

開設している海水浴場で安全に遊泳しましょう!



～新型コロナウイルス感染症の影響で開設されない海水浴場が多く存在します!～

開設されていない海水浴場や海水浴場ではない海浜での遊泳は安全対策が確保されていないため**危険です!**

- 監視員、ライフセーバー等の不在
事故発見が遅れる、救助体制が整っていない
- 遊泳区域がない
水上オートバイや小型船舶との接触、急に水深が深くなる
- 沖に流される
離岸流が発生しやすい場所が多い、沖への風が吹きやすい場所がある



海で溺れた場合には、安全を確保するため、背浮きや浮き沈みをしながら続けて長く浮くように心がけましょう。

※詳しくは、次ページ日本ライフセービング協会HPをご覧ください

※開設された海水浴場の情報は、各自治体等のホームページまたは第八管区海上保安本部ホームページでご確認ください。

・第八管区海上保安本部HP <https://www.kaiho.milt.go.jp/08kanku/>



JCG 第八管区海上保安本部 浜田海上保安部
〒697-0063 島根県浜田市長浜町1785-16
電話番号:0855-27-0770(代表)

<痛ましい海浜事故事例>

事例1

令和2年7月、福岡県新宮町の海岸で子どもだけで遊んでいた小学4年生の女兒3人のうち、1名が波にさらわれ溺死しました。例年であれば海水浴場として開設されて監視員等が常駐しているところ、新型コロナウイルスの影響で海開きされておらず、監視員等はいませんでした。

事例2

令和2年6月、茨城県ひたちなか市の海水浴場に高校生の友人5人で訪れ、そのうち1名が水域内設置の沖合構造物までビーチボールを抱えて泳ぎ始めたところ、ビーチボールが外れ溺死しました。この海水浴場は海開き前であったことから、監視員等はいませんでした。

<背浮きや浮き沈みをしながら助かった事例>

平成29年3月、沖縄県石垣市の海水浴場において、友人3人とビーチで磯遊びをしていた小学6年生の男子1名が、深みにはまり流されたものの、テレビ番組で見た「流された場合の姿勢(仰向けで力を抜いて大の字になる。)」を思い出してその姿で漂流。その間、友人が近くにいた大人に救助を求め、ビーチ救難所の水上オートバイにより救助された。

水辺での安全指導、監視・救助を行う団体である(公財)日本ライフセービング協会と海上保安庁は、平成30年に協定を結び事故情報の共有や事故防止対策や安全啓発活動を実施しています。

今回、日本ライフセービング協会作成のe-ラーニングを紹介させていただきますので、海水浴における事故防止指導教材としてご活用ください。

<公益財団法人日本ライフセービング協会>



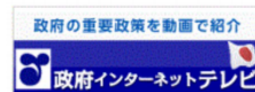
守ろう!いのち
学び合おう!水辺の安全



<https://elearning.jla-lifesaving.or.jp/>

<政府インターネットテレビ>

「海上保安庁監修」～海のプロにきく“遊泳時4つの心得”～



<https://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg20942.html>

2, e-Lifesaving に関する実践と情報発信

2-1 守ろういのち 学び合おう水辺の安全オンラインセミナー 共同：一般社団法人吉川慎之介記念基金

6月14日（日）@成城学園
6月28日（日）@成城学園

溺れた際の対処法を
水辺の事故防ごう 親子向けオンラインセミナー

2020年6月16日（火）（愛媛新聞）

シェア ツイート LINEで見る 文字 小 大

海水浴シーズンを前に「守ろういのち 学び合おう！水辺の安全セミナー」（吉川慎之介記念基金など共催）が14日、ビデオ会議アプリ「Zoom（ズーム）」を使ってあり、愛媛県西条市や東京などから親子14組が参加した。新型コロナウイルスの影響で水泳の授業縮小や中止が相次ぐ中、小中学生が海で溺れた際の対処方法をネット上で学んだ。

同基金は2012年7月に西条市の加茂川で幼稚園のお泊まり保育中に流され亡くなった吉川慎之介ちゃん＝当時（5）＝の両親が設立。日本ライフセービング協会も共催し、初めてのオンライン開催となった。

ビデオ会議アプリを使って水辺での安全な過ごし方を指導する吉川優子さん（左）と松本貴行さん＝14日午前、東京都世田谷区

ヤフーニュース

「水に慣れぬ今夏 事故防ぐ心構えを」

海水浴シーズンが近づき、溺れ死の事故も発生している。溺水を防ぐには、事前の練習や、正しい対処法を知る必要がある。専門家は「溺れたら、体を動かさず、呼吸を止めず、目を閉じて目を閉じて目を閉じて」とアドバイスしている。

溺水を防ぐには、事前の練習や、正しい対処法を知る必要がある。専門家は「溺れたら、体を動かさず、呼吸を止めず、目を閉じて目を閉じて目を閉じて」とアドバイスしている。

東京新聞

海水浴 万一に備えよう
西条の親子ら ネット上で安全セミナー

海水浴シーズンを前に「守ろういのち 学び合おう！水辺の安全セミナー」（吉川慎之介記念基金など共催）が14日、ビデオ会議アプリ「Zoom（ズーム）」を使ってあり、愛媛県西条市や東京などから親子14組が参加した。新型コロナウイルスの影響で水泳の授業縮小や中止が相次ぐ中、小中学生が海で溺れた際の対処方法をネット上で学んだ。

ビデオ会議アプリを使って水辺での安全な過ごし方を指導する吉川優子さん（左）と松本貴行さん＝14日午前、東京都世田谷区

愛媛新聞

変わる 水辺の安全

水辺に向かう前、日本ライフセービング協会が呼びかける心構えや準備。その日の気象状況と風や波の情報を知る。深く物やライフジャケット、適切な応急手当ができる準備をする。流の高さや水深、沖への流れなどを確認しながら入水し、足のつく範囲で遊ぶ。アルコール飲料を飲んでからの入水は絶対にやめる。もし浮輪などが沖に流された場合、泳いで追いかけない。一人一人がライフセーバー。子どもから目を離さない。

ライフセーバーいない海も ■着衣泳オンライン講習

新型コロナウイルスの影響を受け、水辺の安全管理が厳格化されている。着衣泳の講習会が開催され、参加者は「浮輪代わりにペットボトルを投げる時には、風に流されないよう少し水を残して」と説明。子どもたちは真剣な表情で聞いていた。

2012年、愛媛県で幼稚園のお泊まり保育中に川に流され死亡した吉川慎之介ちゃん＝当時（5）＝の両親らが企画した。

朝日新聞

水難事故防ぐウェブ講習会 遺族企画、授業中止受け

6/14(日) 15:50 配信

KYODO

新型コロナウイルスの感染拡大で水泳授業やプール営業の取りやめが相次いでいることを受け、水難事故の遺族らが14日、水辺での安全を学ぶ機会をつくらうと、ビデオ会議システム「Zoom（ズーム）」を使った子ども向けの講習会を開いた。

日本ライフセービング協会の松本貴行副理事長が動画の教材を使い「浮輪代わりにペットボトルを投げる時には、風に流されないよう少し水を残して」と説明。子どもたちは真剣な表情で聞いていた。

2012年、愛媛県で幼稚園のお泊まり保育中に川に流され死亡した吉川慎之介ちゃん＝当時（5）＝の両親らが企画した。

共同通信

いつもと違う夏

水泳授業中止で水の事故への備え学ぶ

松本貴行さん

自分の命を守るすべを伝えるができないところで夏を迎える

NHK ニュース7

7月26日（日）@成城学園

2, e-Lifesaving に関する実践と情報発信

2-3 西条市 水辺の安全プロジェクト オンラインセミナー



中高生対象
親子参加も大歓迎！

プロジェクトの日程

① 7/26 (日)
オンラインで学ぶ
「守るいのち学びあおう水辺の安全」セミナーをオンラインで受講
講師：松本貴行先生
時間：10:30～11:30 予定
場所：ご自宅または市民活動支援センター (SSC) 内で zoom 受講 ※定員 10名

② 8/2 (日)
自然を知る・学ぶ・遊ぶ
市内ポイントにて「カヌー体験」フィールドに出ることによって感じる魅力や安全の大切さを体験
※プロのガイドが付きます。
時間：午後 (詳細調整中)
参加費：一人 ¥1500 (安全装備、カヌーレンタル 保険料込み) 定員：8名
場所：加茂川東宮予定 ※当日の天候、状況により変更有

→8/16 (日) までに動画を編集して魅力と安全を発信しよう！
体験から感じた西条の魅力と安全について動画を編集、SSC 公式 YouTube チャンネルに投稿 ※動画は体験の様子スタッフが撮影したものをお返しし、編集を担当してもらいます。
体験日 (②8/2) のみの参加も OK! 体験までに①の動画を視聴の上で参加していただきます。①オンラインセミナーのみの参加も大歓迎！

申し込みはまずメッセージを！
LS さいじょう Facebook → @
SSC Instagram (@saijoss)

楽しみながら安全を学ぶ体験型セミナー

豊かな自然あふれる西条市の魅力を感じながらフィールド体験で安全を学び、感じたことを発信しよう！

オンラインでのセミナー (zoom 使用) からアクティビティ体験、動画編集までを目的としています。たくさんの要素が詰まった楽しく学べるプログラムです！

西条の自然をいつもと違う体験をしてみよう！水辺の安全について考えよう！「魅力的で安全意識も高い西条市」をあなたが発信してアピールしませんか？

オンラインセミナー講師 紹介
松本貴之先生

- 公益財団法人日本ライフセービング協会副理事長・教育本部長
- 学校法人成城学園中学校高等学校 保健体育科教諭

主催：Love&Safety さいじょう
Tel・Fax：0897-47-6334 / E-mail：jamrooms@biscuit.ocn.ne.jp (jam room store 内)

協力：西条市市民活動支援センター (SSC)
Tel・Fax：0897-53-2603 / E-mail：info@saijo-ssc.jp
お問合せもお気軽に！！

西条市広告



愛媛新聞

【子供たちの命を守れ！
ライフジャケットの着用を】

日本財団 海と日本PROJECT
in 富山県 2020 #35

※324回視聴 (2021年3月)

<https://youtu.be/e1x1AxcGwE4>



2, e-Lifesaving に関する実践と情報発信

2-4共同発信、及び海水浴場での周知



Web授業の風景



NHK ニュース

公益財団法人日本ライフセービング協会
2020年6月24日

PRESS RELEASE

報道関係者各位

**水辺の安全を学べる専門WEBサイト
e-Lifesaving <川編> 公開**

水辺の安全はこの夏に限ったことではありません。公益財団法人日本ライフセービング協会（JLA 東京都港区浜松町2-1-18）では、より一層、水辺の安全に対する知識と技能を皆さんとともに考え、お伝えしたいと思っています。今回は水辺の安全について学べる専門WEBサイト「e-Lifesaving」へ、公益財団法人河川財団との協同制作により、新たに「川編」がわかりました。学校はもちろん、ご家庭やお友達同士でも、いつでも無料でご利用いただけます。「プール編」「海編」とともにぜひ活用してください。

<https://elearning.jla-lifesaving.or.jp/>

【e-Lifesaving（イーライフセービング）】

パソコン・タブレット端末とネットワーク環境があれば、学校で、自宅で、動画を見たり、クイズに答えて、どこでもWater Safetyが学べます。

子どもたちが水辺の事故防止の心構えや、安全のための知識と技能を身に付け、楽しく活動できることを願い、この教材を制作しました。

小学校・中学校の新学習指導要領に沿った「水泳運動の心得」や「安全確保につながる運動」、「水辺の事故防止に関する心得」などへの実践的理解を深めるような構成となっています。主に学校教育において、電子黒板やPC・タブレット端末等を使用し、主体的・対話的な学びを促すことをねらいとしています。プール活動や体験活動の事前指導、道徳や総合的な学習の時間など、水辺の安全教育に幅広くご活用いただけます。

- イラストを見ながら事前学習
- ドラマを見ながら水辺の危険や、もしもの対処を考える
- 実践動画で「助かる方法」「助ける方法」を学ぶ
- クイズに答えてWater Safetyについて学ぶ

e-Lifesavingは、海と川プロジェクト【日本財団】（<https://www.nippon.or.jp/>）の助成で、公益財団法人河川財団（<https://www.kawazumi.or.jp/>）と学習プログラムの協力で作成しています。くわしくご活用できる「e-Lifesaving」の教材等はこちらをご覧ください。 <https://youtu.be/p8Am1f8uoc0> こちらをご覧いただくとすぐに授業やセミナーで活用できます。





8月21日（金）日本ライフセービング協会と河川財団の共催で、小中学生向けに、e-Lifesaving<川編><海編>を用いた公開オンライン講習会を開催しました。一般社団法人吉川雅之介記念基金の協力もあり、代表の吉川雅之介さんもご一緒に、大人や指導者向けのセミナーも同時開催しました。水辺の安全対策や事故防止については、それぞれの専門団体が、横断的に協力し、様々な年代で「知っている」から「実践できる」ようにアプローチすることが重要です。




このリリースに関する取材・お問い合わせ
日本ライフセービング協会事務局
TEL.03-3459-1445（平日12:00-18:00）FAX.03-3459-1446 E-mail: press@jla.gr.jp
〒105-0013東京都港区浜松町2-1-18トップビル <https://jla-lifesaving.or.jp/>

水辺を楽しまれるみなさまへ、日本ライフセービング協会から大切なご案内です。

守ろう！いのち 学び合おう！水辺の安全

Swim & Survive




JLA e-Lifesaving
<https://elearning.jla-lifesaving.or.jp/>

パソコン・タブレット端末とネットワーク環境があれば、学校で、自宅で、動画を見たり、クイズに答えて、どこでもWater Safetyが学べます！（無料）

公益財団法人日本ライフセービング協会は、子どもたちが水辺の事故防止の心構えや、安全のための知識と技能を身に付け、楽しく活動できることを願い、この教材を制作しました。小学校・中学校の新学習指導要領に沿った「水泳運動の心得」や「安全確保につながる運動」、「水辺の事故防止に関する心得」などへの実践的理解を深めるような構成となっています。学校教育において、電子黒板やPC・タブレット端末等を使用し、主体的・対話的な学びを促すことをねらいとしています。プール活動や体験活動の事前指導、総合的な学習の時間、あるいは家庭学習としても幅広くご活用できます。みなさまの水辺での楽しい活動に、少しでもお役立てできれば幸いです。

公益財団法人 日本ライフセービング協会
ライフセービング教育部



水辺のどなたが
あぶないのかな？
水の中で
体はどうなるのかな？

うみくん



もしもお友達が
水に落ちてしまったら
どうすればいいのかな？

そらちゃん

水に入らないで
助ける方法が
あるのかしら？
どうやって
ライフジャケットを
正しく着るのかしら？

制作協力：学研プラス



日本財団助成事業
JLA e-Lifesaving～Swim&Survive～は子ども達への水辺の安全ICT教育プログラムとして、日本財団（<https://www.nippon-foundation.or.jp/>）の助成により開発されました。

JLAから子ども達に、自分でできる水辺の安全対策を伝えたい

取材お申込・お問い合わせ
日本ライフセービング協会 E-mail: press@jla.gr.jp

水辺の事故ゼロをめざして
日本ライフセービング協会

3, その他 e-Lifesaving を用いた指導実践 (スイミングクラブ連携)

アクラブで朝活しましょう!

命を守るための水泳授業

1955年に瀬戸内海で起きた海難事故(紫雲丸衝突事故:小学生100名を含む168人が亡くなるという大惨事)をきっかけに学校プールの整備が進み、水泳授業が正課となりました。その成果もあって、溺水などによる年間2,000件あったと云われる子供の水難事故は激減しました。2000年以降は100人程度で落ち着いています。子供の命を守るという点にのみでも小中学校などの水泳指導が果たした役割は計り知れません。しかし、今年はコロナ禍余波で学校水泳がありません。更に、公共施設やレジャー施設のプール運営も中止または縮小が決定しています。そこで、アクラブでは水難事故防止の切っ掛けになるような「水泳授業」を開催します。兄弟姉妹、友達と一緒に是非、参加してください!!

尚、チャリティー活動として、このイベントによる収益から経費を除いた全額を日本ライフセービング協会へ寄付します。

命を守るための水泳授業

日時・対象	8月 4日(火) 午前 8:45~10:00	小学2~3年生
	8月 5日(水) 午前 8:45~10:00	小学3~4年生
	8月 6日(木) 午前 8:45~10:00	小学1~2年生
	8月 7日(金) 午前 8:45~10:00	小学4~6年生
申込期間	7月7日(火) ~ 各イベント開催日の2日前まで	
	<small>※各イベント等、定員になり次第締め切ります。</small>	
参加費	1,100円 定員 各日40名 <small>※最少催行人数 5名</small>	
	<small>サバイバルスイミング(20分)+泳力別グループ練習(30分)+自由練習(25分)</small>	
申込方法	アクラブHPのチャリティーイベントフォームよりお申し込みください。	
その他	このイベントは公益財団法人日本ライフセービング協会の協力を頂き、開催します。	
	公益財団法人日本ライフセービング協会は、『すべては水辺の事故ゼロをめざして』をスローガンに、水辺の安全教育などを永年に亘って行っているスペシャリストです。	

主催 **アクラブ堀之内**
042-670-0088
<https://www.aclub.com/cms/horinouchi/>

協力 **日本ライフセービング協会**
JAPAN LIFESAVING ASSOCIATION
<https://jla-lifesaving.or.jp/>

LIME 株式会社 ライム
03-3977-6632
<https://lime78.co.jp>



e-Lifesavingによる知識の習得と、プールでのWSプログラムを融合させたトライアル。アクラブのインストラクターも参加し、**継続的な安全教室**の実施を視野にともに学んでいた。

アクラブ主催 講師派遣 e-Lifesavingを活用した指導実践
(稲城店、堀之内店、八王子店、調布店、藤沢店)

4, e-Lifesaving に関連する学会報告及び講演会 ①

日本臨床救急医学会
2020年8月5日 (水)
シンポジウム (ウェブ収録)

「水辺の事故防止を目的とした教育連携の重要性」をテーマとし、ライフセーバーでなくても、**だれでも水辺の安全教育が展開できる「e-Lifesaving」**について紹介した。特に開発プロセスとコンテンツの特色、今後の展望についてを発表した。

水辺の事故ゼロと救助救命に関する多職種連携
演題番号 SY17-1 (C)
○松本 貴行^{1,2}
¹公益財団法人日本ライフセービング協会/ライフセービング教育本部, ²消費者庁消費者安全調査委員会/専門委員

水辺の事故防止を目的とした教育連携の重要性

ライフセービングとは「人命救助を本旨とした社会活動で、水辺の事故防止のための実践活動」を意味する。昨今では、事故を未然に防ぐための環境整備や人材教育にも注力している。主に行政、教育機関との連携・協力について紹介する。①「守ろう!いのち 学び合おう!水辺の安全」ICT教材の開発と学校教育への導入事例。小学校・中学校の新学習指導要領に沿い「安全確保につながる運動」「水辺の事故防止に関する心得」等への実践的理解を深められる構成とした。電子黒板やPC・タブレット端末等を使用し、主体的・対話的な学びを促すことがねらい。今夏のプール活動や体験活動の事前指導、総合的な学習の時間等、幅広く誰もが水辺の安全教育に触れられることが特徴。②教育・保育施設等におけるプール活動・水遊びに関する実態調査及び映像解析への協力。プール活動や水遊びにおける事故件数は、他の活動と比べて少ないものの、重篤な事故につながってしまうこともある。教諭の「監視不備」が起きやすい状況や、「子どものリスク行動」を理解することで、監視の質を高め、事故を未然に防ぐことにつなげたい。消費者庁の情報開示を受けて、本発表の内容を検討する。

シンポジウム 17 (SY17)

「水辺の事故ゼロと救助救命に関する多職種連携」

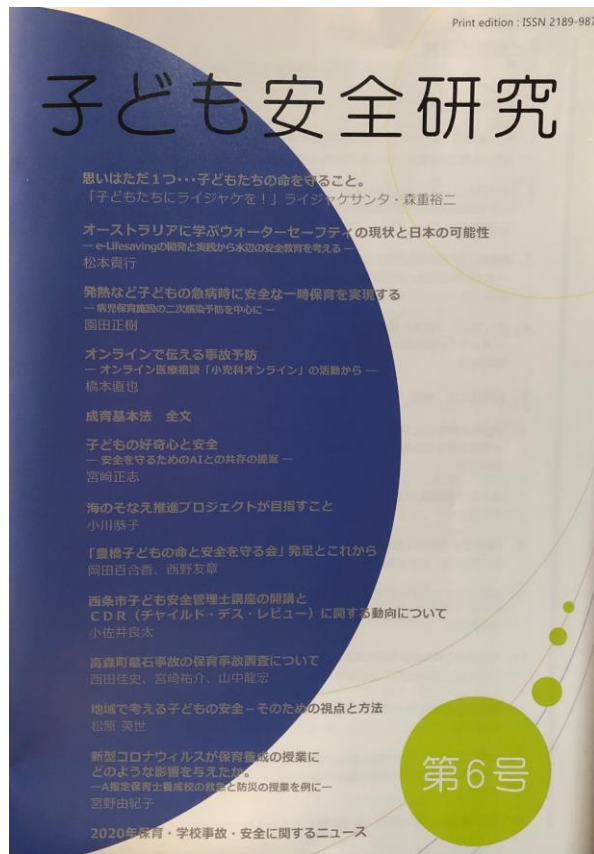
座長

東海大学 救命救急医学 中川 儀英
君津中央病院 救命救急センター 北村 伸哉

- SY17-1 (C)** 水辺の事故防止を目的とした教育連携の重要性
..... 公益財団法人日本ライフセービング協会 / ライフセービング教育本部 松本 貴行
- SY17-2 (C)** 海水浴場における溺水・傷病の実態と救助救命の高度化
..... 公益財団法人日本ライフセービング協会 溺水防止救助救命本部 石川 仁憲
- SY17-3 (C)** 地域ライフセービングクラブが公的機関と連携するために
..... 特定非営利活動法人 西浜サーフライフセービングクラブ 副理事長 石川 修平
- SY17-4 (C)** 海上保安庁と日本ライフセービング協会との連携強化について
..... 第三管区海上保安庁本部警備救難部 救難課 寺門 嘉之
- SY17-5 (D)** 救助救命, メディカルコントロールの連携と課題
..... 防衛省防衛医科大学 病院救急部 吉澤 大
- SY17-6 (C)** 水難救助事案等における関係団体との連携強化にむけて
..... 藤沢市消防局 警防課 秋葉 雄一



4, e-Lifesaving に関連する学会報告及び講演会 ②



日本子ども安全学会
2020年9月26日(土)

オーストラリアに学ぶウォーターセーフティの現状と日本の可能性
～e-Lifesavingの開発と実践から水辺の安全教育を考える～

オーストラリアに学ぶウォーターセーフティの現状と日本の可能性① ～e-Lifesavingの開発と実践から水辺の安全教育を考える～ 松本 貴行 (公益財団法人日本ライフセービング協会副理事長/学校法人成城学園教諭)

1. 水難の現状①
世界保健機関 (WHO) の Global report on drowning 2014¹⁾によると、日本(8,999人、2011年)はロシア(11,981人、2010年)に次いで世界で2番目に溺死者が多い。図-1の厚生労働省の統計²⁾では2011年を境に不慮の溺死者数は、交通事故死者数を上回っている。その実態は、家庭内における浴槽での事故が圧倒的に多く、次いで不明、自然領域における水の事故という内訳となっている。

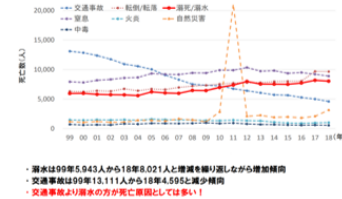


図-1 主な不慮の事故の種類別にあたる死亡数(厚生労働省)①
よりJLA作成①

警察庁³⁾によると令和2年夏期(7～8月の2か月間)における水難の発生件数は、504件(前年対比+43件)、水難者616人(前年対比+22人)、うち死者・行方不明者は262人(前年対比+23人)と、発生件数、水難者とも平成28年を境に減少していたが、このコロナ禍において増加に転じている。このうち中学生以下の子どもの発生件数は60件(水難者が子どものみの場合)、水難者101人、うち死者・行方不明者16人(前年対比+2人)という結果となっている。

令和2年は感染症対策の観点から海水浴場の開設の有無が各都道府県や市区町村により分かれ、通常の監視救助体制が整わなかった背景がある。公益財団法人日本ライフセービング協会(以下JLA)は、全国197か所の海水浴場に認定ライフセーバーを配置している(2019)。救助した過去の平均人数は2,341人(2015-2019)である。一方、

平成29年海難の現況と対策⁴⁾(海上保安庁)に記載されている活動内容別事故者数の推移によると、遊泳中の平均人数は293人(2013-2017)である。ライフセーバーは公的救助機関から示される数の約8倍にも及ぶ事故を対処していることになる。図-2の海水浴場における年齢別の救助人数によると、20-24歳が最も多く、次いで5-9歳、10-14歳の年齢に多い実態からも、水辺の事故防止に関する正しい知識と技能を身に付けることのできる実践的な水泳授業が重要と言える。

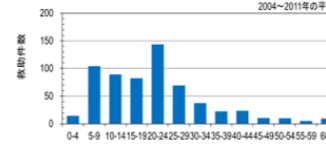


図-2 海水浴場における年齢別の救助人数(JLA)①

2. 体育授業における水泳の実態②
図-3に示す文部科学省の調査⁷⁾(2014年)によると、小学校において「浮く・泳ぐ運動」は、「よくできた・ややできた」が8割近くと、一定の成果を取られている。しかし、小学校と中学校を比較すると、中学校の水泳では、その数値が減少している。

一方、教員の「指導のしやすさ」という観点では、小学校の70.1%に対し、中学校の水泳では、58.2%と、他の領域と比較して低い。その要因として、水着になることへの抵抗感や、「泳げない子」と「泳げない子」の二極化が明確となり、教員側も児童・生徒それぞれの能力に合った授業展開に苦慮している様子が見える。

学校側はプール施設管理を含め、児童・生徒の体調管理、溺水事故や熱中症のリスク等、十分な注意を払ったうえで授業実施しなければならない。他の膨大な業務を抱えつつ、水泳の安全管理と指導の両輪を担う重責は計り知れない。



図-3 文部科学省体育・保健体育の授業の実態(2014)より作図①

では水泳授業の内容は何を実施しているのか。図-4に示す「小学校体育における水泳授業の実態に関する研究」⁸⁾(佐藤・池田:2019)によると、競技に偏った水泳授業の実態と、さらには学校独自のカリキュラムがある学校ほど、泳法指導に傾斜した内容の授業構成となっていることがわかる。また実技を伴う水辺の安全教育については具体的に実施されていない様子が見える。



図-4 小学校における水泳授業の実態に関する調査 佐藤、池田(2019)より作図①

3. 水泳の可能性③
わが国の水難の状況を国民一人一人がまずは知り、関心を抱き、予防策を講じる動機に繋がっていくことが重要である。さらには水泳教育が泳法指導を中心とした内容となっている実態を見直すことも必要と考える。

2017年告示の小学校学習指導要領⁹⁾・体育「水泳領域」で高学年に「安全確保につながる運動」が新設されたことは、特に水辺の事故に遭った際、続けて長く浮いていることが自分の命を守ることにつながるというサバイバル・スイムの視点である。(図-5)中学校学習指導要領⁹⁾でも内容の取扱において「学校や地域の実態に応じて、安全を確保するための泳ぎを加えて履修させることがで

きること」、「水泳の指導については適切な水泳場の確保が困難な場合にはこれを扱わないことができるが、水泳の事故防止に関する心得については、必ず取り上げること」としている。プールだけに限らず、自然環境下での危険予測に関する知識や安全対策は、体育の求める「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力」において重要である。授業を通じて水の特性を理解する中で、自然的要因やリスクを想定し、対処法を対話的学びの中から引き出すことが求められる。児童生徒が浮く動作の重要性や泳力の必要性を実感し、主体的学びにつながることを望ましい。

1.2年生	3.4年生	5.6年生
水遊び①	水泳運動②	水泳運動③
水の中を移動する運動遊び①	浮いて進む運動②	クロール③
もぐる・浮く運動①	もぐる・浮く運動②	平泳ぎ③
遊び①		安全確保につながる運動③

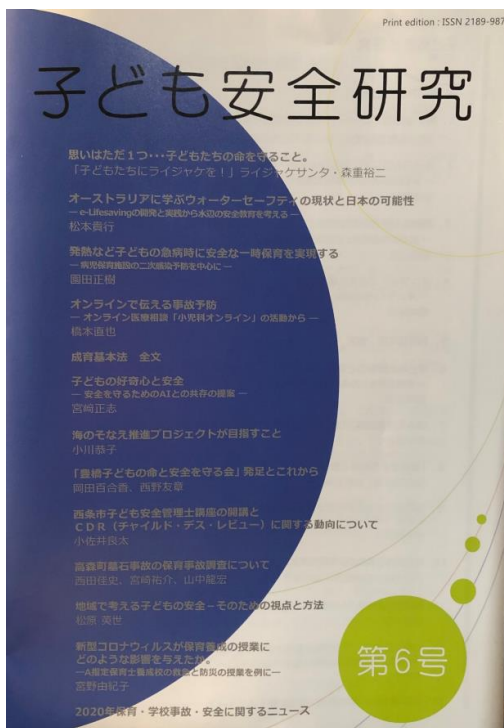
図-5 2017年告示小学校学習指導要領における水泳領域の構成と内容①

4. オーストラリアに学ぶ④
Royal Life Saving Society-Australia (以下RLSSA)は、各州の水辺で起きている溺水調査を通して、教育機関と連携したプログラムを展開している。

AUSTRALIAN WATER SAFETY STRATEGY 2016-2020¹⁰⁾(図-6)では、他に SURF LIFE SAVING AUSTRALIA や AUSTSWIM が協働し、それぞれの組織における溺水事故データを集約し、明確な溺水事故防止における優先すべきターゲットを記している(図-7)。さらには水との関わり方や身のこなし、万一の対処行動等、達成すべき能力の枠組みも記している(図-8)。

オーストラリア政府は溺水事故データを根拠とし、教育の必要性に着目、学校とRLSSAの連携の元、ウォーターセーフティプログラムの実践や、ICT教育の制作に至るまで、国策として溺水事故防止の展開を支援しているのである。

4, e-Lifesaving に関連する学会報告及び講演会 ③



日本こども安全学会 2020年9月26日 (土)

オーストラリアに学ぶ ウォーターセーフティの 現状と日本の可能性 ～ e-Lifesavingの開発と実 践から水辺の安全教育を 考える～

それらの指導にあたるのは RLSSA の指導員である。教員は学校から民間プールまでを引率するのみである。プログラム内容はライフジャケット着用の有無による落水体験(図-9、図-10)。後に安全上、速くその場から移動することを目的としたクロールや(図-11)、ある程度長い距離でも体力の消耗を避け、移動するライフセービング・バックストローク(図-12)を実施。いずれもライフジャケットの効果や着用上の留意点を説明した上での実習であった。その他にも溺れている人に対する安全な救助方法も学んでいた。生徒たちは毎年受講し、継続的な学びを心身の成長とともに身に付けていく。「知っている」「やることがある」から「理解している」「実践できる」という学びのプロセスを通じて「いかにそれを必要としない自分になれるか」という思考に結び付けていくのである。そこに ICT 教育(RLSSA が製作した e-Lifesaving 教材)との連動が存在する(図-13)。上記実技の前後や、また実技が実施できない場合においても、リアリティーある映像や問いかけの中から、水辺の危険に関する想像力と知識を養い、対話的な深い学びにつなげていくのである。

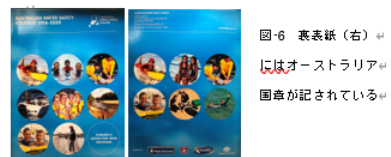


図-6 裏表紙(右)にはオーストラリア国章が記されている

AWSS 2012-15	AWSS 2016-20
Priority Area One: Taking a Life Saving Approach 1. Reduce drowning deaths in children aged 0-14 2. Reduce drowning deaths in young people aged 15-24 3. Reduce drowning deaths in older people aged 25+ 4. Reduce drowning deaths in people aged 65+	Priority Area One: Targeting High-Risk Locations 1. Reduce drowning deaths at inland waterways 2. Reduce drowning deaths at coastal waters 3. Reduce surf beach drowning deaths 4. Reduce drowning deaths by strengthening the aquatic industry
Priority Area Two: Focusing on Key Drowning Challenges 7. Reduce alcohol and drug related drowning deaths 8. Reduce drowning deaths attributed to watercraft and recreational aquatic activities 9. Reduce drowning deaths in high-risk populations 10. Reduce the impact of disaster and extreme weather on drowning deaths	5. Reduce alcohol and drug related drowning deaths 6. Reduce drowning, watercraft and recreational safety related drowning 7. Reduce drowning deaths in high-risk populations 8. Reduce the impact of disaster and extreme weather on drowning deaths

図-7 Comparison of goals between the AWSS 2012-15 and the AWSS 2016-20

School Level	Competency Network	Minimum completion	% Target Population
Pre-School	Experience in skill competencies for safe water entry & exit, floating & treading, breathing, movement & swimming, rescue, survival & emergency skills, water safety education & parent education	Participation in the program	100%
Primary School	Personal aquatic survival action of the National Swimming and Water Safety Framework • Competency to be achieved by the completion of Primary School education	Equivalent to Swim and Survival Level 4 (and Surf Lifesaving where available) Level 3 Swim and Survival (and Surf Lifesaving where available) Level 2 Swim and Survival (and Surf Lifesaving where available)	100% 75% 50%
Secondary School	Life Saving action of the National Water Safety Framework - including equivalent to Basic First Aid & Resuscitation Training • Competency to be achieved by the completion of Year 10	Equivalent to RLSSA Dry Rescue, including Resuscitation (and SLA Surf Survival where available) • RLSSA Bronze Star (and SLA Surf Survival where available) • RLSSA/SLA Bronze Medalist	100% 75% 50%

図-8 National Water Safety Education Competency Framework



図-9



図-10



図-11

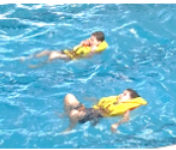


図-12



図-13

溺水を想定する動画が流れ、溺水にあった子、救急車を呼ぶ子、助けに行き子等、それぞれの立場になり、その行動を考え、検証する学習内容となっている

5. 日本に求められる水泳(水辺)教育の在り方
今回の小・中学校における学習指導要領改訂は、水泳授業の本質を見つめ直す機会と捉えなければならぬ。それは今まで起きてきた自然災害や水の事故の歴史を今一度、胸に刻むことである。
夏の終わりに報道される事故の様子や件数には、決して表現できないほどの苦しみや、その数を上回る永遠の悲しみが存在することを私たちは忘れ

てはならない。
その一方で、教師側の授業実施に対する負担や不安感(事故の危険性、指導能力、生徒の泳力差などが起因)にも目を向ける必要がある。

高度経済成長とともに急速にプールの建設がなされた歴史を振り返れば、昨今ではプールの老朽化とその予算が課題となっている。それらの事から学校が水泳を実施するうえで、市民プール等の共同利用や民間スイミングクラブへの指導委託にも注目が集まっている。

オーストラリアの取り組みを好事例と捉え、水に親しみ、生涯を通じて健康、安全を確保していく能力を養うためには、児童・生徒が水辺において自分の命を守れるという実感に連動するようなカリキュラムマネジメントが重要である。

日本でも省庁や民間団体の枠組みの中でそれぞれに「水の事故」に関するデータや啓発を実施するに留めるのではなく、日本の溺水の現状と課題をより明確なものとし、国として溺水事故防止のための戦略的事業(予算化)に位置づけ、取り組む必要がある。その一環に、誰もが水と関わる導入(水泳授業)において、各年齢期に何を学ばせていくことが重要なのかというフレームワークを協議し、さらにはそれを機能させる制度設計(学校と他団体連携の促進)が求められる。

7. おわりに
JLA では、子どもたちが水辺の事故防止の心構えや、安全のための知識と技能を身に付け、楽しく活動できることを願い、ICT教材を制作した(図-14、図-15)。小学校・中学校の学習指導要領に沿った「水泳運動の心得」や「安全確保につながる運動」、「水辺の事故防止に関する心得」などへの実践的理解を深められるような構成となっている。主に学校教育において、電子黒板やPC・タブレット端末等を使用し、主体的・対話的な学びを促すことをねらいとしている。プール活動や体験活動の事前指導、総合的な学習の時間など、水辺の安全教育に幅広く活用いただければ幸いである。



図-14 e-Lifesaving (無料)



図-15 指導者向け研修動画 (YouTube)

謝辞: 日本子ども安全学会においてこの度の機会を賜りましたことは、一保健体育教師として水辺の安全、教育を通じて、今後の課題を見つめ直す機会となりました。理事長の小佐井良太教授、(一財)吉川慎之介記念基金の吉川優子代表理事はじめ、「e-Lifesaving」開発に際し、助成下さっている(公財)日本財団、制作協力(株)「学びみらい」の方々へ深甚なる謝意を表します。

- 参考資料・文献
- World Health Organization: 「Global report on drowning Preventing a leading killer」 P50-59
 - 厚生労働省: 人口動態調査 日本における不慮の事故(溺水等)統計
 - 警察庁生活安全局生活安全企画課: 令和2年夏期における水難の概況
 - JLA: パトロール統計報告書 サマリー2019
 - 海上保安庁: 平成29年海難の現況と対策 P15
 - JLA: 2020年の学校や家庭における「水辺の安全教育」と「事故防止」
 - 文部科学省: テーマ2 体育・保健体育の授業の充実、分析結果 P21
 - 佐藤友香・池田拓人: 小学校体育における水泳授業の実態に関する研究-目標・内容・方法に着目した課題の抽出-
 - 文部科学省: 【体育編】小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 【保健体育編】中学校学習指導要領(平成29年告示)解説
 - AUSTRALIAN WATER SAFETY COUNCIL: AUSTRALIAN WATER SAFETY STRATEGY 2016-2020

4, e-Lifesaving に関連する学会報告及び講演会 ④



西条市 子ども安全セミナー 2020年10月25日 (日)

～e-Lifesavingの開発と実践から水辺の安全教育を考える～

西条市

みんなで
 子どもを
 守ろう。

子ども安全セミナー 無料

場所：webと会場のハイブリッド形式で行います

10/25

2020
10月25日
13:00-16:00

水遊びやアウトドア、部活に体育や図工の授業…子どもたちを取り巻くあらゆる場面に、さまざまなリスクが潜んでいます。今のあなたは、子どもを事故から守れるでしょうか。子どもの安全に関する知識と事故未然防止策を知り、現場で子どもたちのために活かすため、第一線で研究・活動する講師のお話を聞いてみませんか？

「学校のリスクを見える化する：スポーツ障害から教育問題まで」

名古屋大学大学院准教授 内田 良 氏

「e-Lifesavingの開発と実践から水辺の安全教育を考える」

成城学園中学校高等学校 保健体育科教諭
日本ライフセービング協会副理事長 松本 貴行 氏

対象 保育園・幼稚園・小学校などで子どもに関わる職員、一般の保護者、地域の方

場所 会場：西条市地域創生センター3階 大研修室 (定員30人)
web：オンライン会議ツールZoom (定員50人)

申込 HPで本セミナーのページをご確認後、FAXかメールでお申しください。
西条市地域創生センター Tel 0897-52-5156
Fax 0897-47-5156
メール chiiikisosei@saijo-city.jp 詳細はこちら

「感染症対策について」 西条市消防本部 瀬尾 啓次 氏

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、体調不良の方、過去2週間以内に感染を引き続き拡大している国や地域への訪問歴がある方の方の来場はご遠慮ください。会場参加の方は、消毒やマスク着用のご協力をお願いします。

主催：西条市 共催：愛媛大学地域協働センター西条 後援：一般社団法人吉川博之記念基金、NPO法人 Love & Safety おおむら、Love & Safety さいじょう

5, e-Lifesaving の現状



バナー依頼予定一覧 (SNS発信含む)

- ・ 日本財団 海と日本プロジェクト
- ・ 水泳連盟
- ・ トライアスロン連合
- ・ 川に学ぶ体験活動協議会
- ・ 河川財団
- ・ 海さくら
- ・ 子どもたちにライジャケを!
- ・ 吉川慎之介記念基金
- ・ 海上保安庁Water Safety Guide
- ・ 文部科学省
- ・ 気象庁
- ・ 消防庁
- ・ スポーツ庁
- ・ 消費者庁
- ・ 学研みらい
- ・ JLA各都道府県協会、及びクラブHP
- ・ 各都道府県における海水浴場案内ページ
- ・ 他、関連団体

2021年3月 トップページ

助成：日本財団

制作協力：学研みらい

5-1 事前学習①

プール授業の前のガイダンスとして利用できる！



プール活動の事前指導として活用。
事故を未然に防ぐことへの思考を育てる。

★新学習指導要領

小「水泳運動の心得」
中「健康、安全の心得」

プール編

～ライフセーバーが監視救助活動をする中で、起こりやすい事象を取りまとめたもの～


プールに入る前に…



水に入ったら…



プールの用具、道具

プールサイドからのプールへのジャンプは、人が下にいたときに重大な事故につながるため、絶対にしてはいけません。

全10項目



水中での活動を行うときは「バディ」が大切です。おたがいを守り合うのがバディの役目です。



安全に活動するために

全8項目



水中から出られなくなるおそれがあるので、遊具やフロア台の下にもぐってはいけません。



全9項目



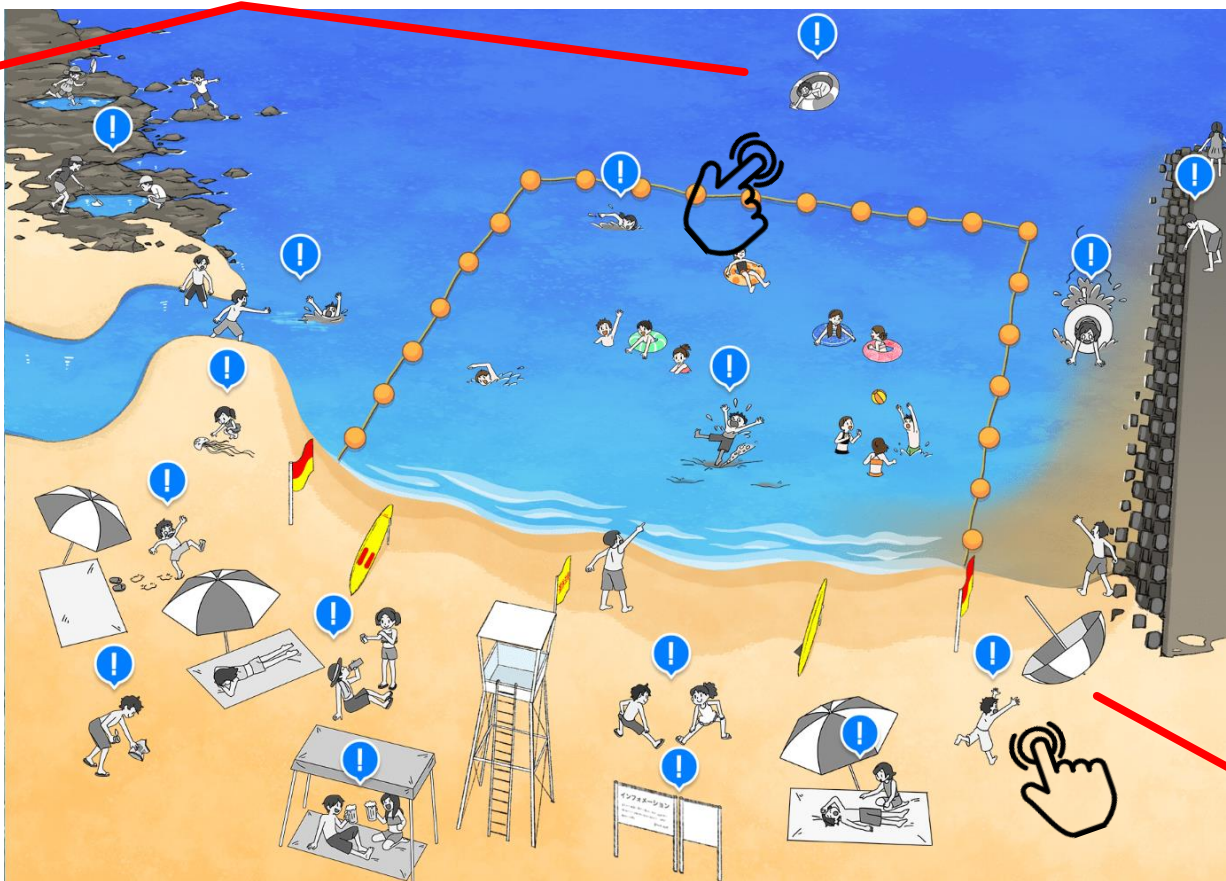
バトちゃん

～海水浴用場における安全の心構えを身に付けよう～

起こり得るリスクから、実践的な回避方法を学び、海岸利用における安全の自立を目指すことがねらい

※学習指導要領「水辺活動」

大きなうき具は風の抵抗を受けやすいので、うき具を使う際は風に流されないように注意しましょう。もし、陸からの風によって、うき具だけが沖に流されてしまっても、無理に追わないようにしましょう。追っている途中で体力がなくなっておぼれたら大変です。



風が強い日にはパラソルやテントが飛ばされる恐れがあり、周りの人に当たってしまったら大変危険です。パラソルは風上にやや倒し、砂の中に深くさしこんだら、重しを結んで飛ばされないようにしましょう。



想定（設定）されているリスクは全16項目

～ライフセーバーが監視救助活動をする中で、起こりやすい事象を取りまとめたもの～

5-1 事前学習③

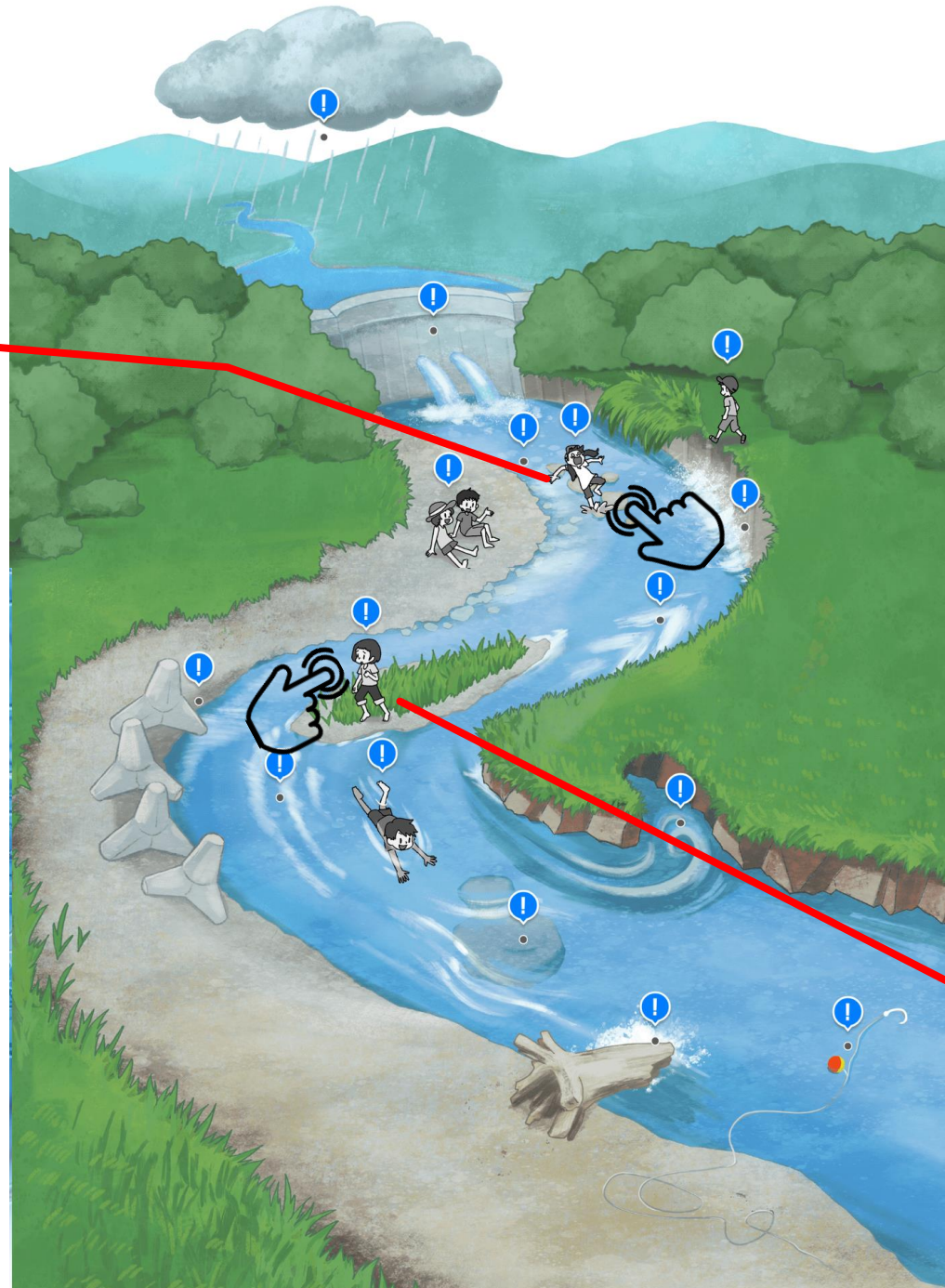
川 編

～川における安全の心構えを身に付けよう～

かわぞこ いわ しょうがいぶつ おおき なが はや せ
川底に岩などの障害物が多くある流れの速い瀬
は、流れの中で立とうとしたり、川底に足を向けた
りすると、岩のすき間に足をはさまれる危険性があ
ります。特に急流では、フットエンタラップメント
(足が石の間などにはさまれたりして、川の強い力
に押されて水ぼつしてしまうこと)の危険もありま
す。



2020
New !



起こり得るリスクから、実践的な回避方法を学び、海岸利用における安全の自立を目指すことがねらい

※学習指導要領「水辺活動」

なかす あめ かわ みず ふ すい
中州は、雨などにより川の水が増えると水ぼつする
かのうせいがあり、川岸にもどれなくなってしまうこと
もあるので注意しましょう。



想定(設定)されているリスクは全16項目
～制作協力:公益財団法人 河川財団～

5-2 みんなで考えよう① ~あらすじ~

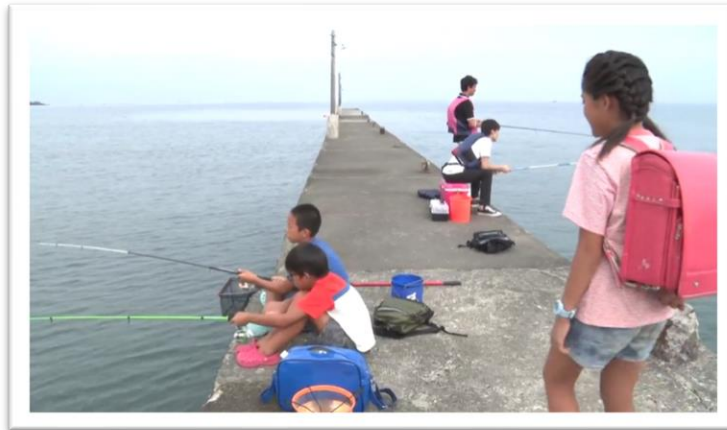
「海でのできごと」



まずは6分19秒
の動画を通して
見てみよう！



ある日、小学生達が放課後に桟橋で釣りを楽しんでいました。桟橋の奥には大学生2人がいます。今日はなかなか釣れません。そこへ女の子が遅れて様子を見にやってきました。



まずは全体を通して見てみよう！

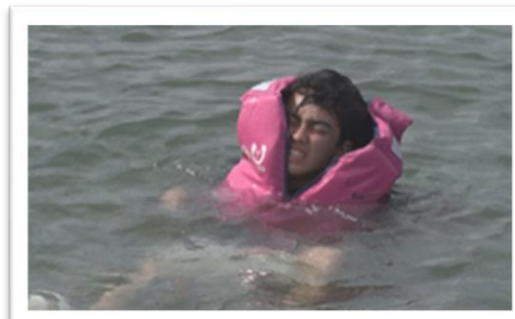
ある夏の日の、海でのできごと。
どんな危険があるか、考えながら見てみよう。



はやと君は桟橋から魚の影を追って網で捕まえようとします。夢中になって追いかけるあまり海へ落ちてしまいます。



桟橋では、はやと君を助けようと、学校で習った“ペットボトル救助”等を試みますが、うまくいきません。



桟橋にいた大学生の正しい“ペットボトル救助”にはやと君は助けられませんが、今度はもう一人のライフジャケットを着た大学生が…



女の子は走ってライフセーバーに伝えに行きます。2人のライフセーバーは、はやと君と大学生の救助に向かいます。



「海でのできごと」

次に2つ目の動画を見てみよう。
同じ動画の中に11の設問があるよ。
考えたり、意見を出し合ったりした
後は、解説を見て学びを深めよう！

学習のポイントは11個！

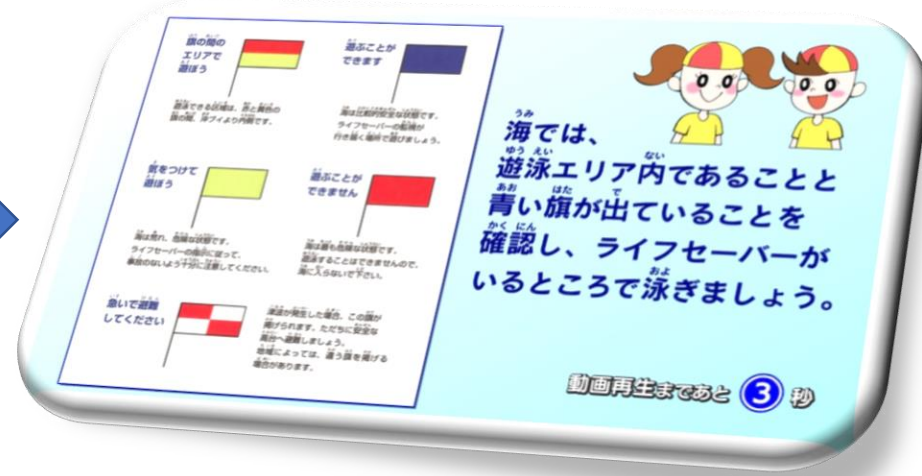
すべて解説付き！



まずは全体を通して見てみよう！
ある夏の日の、海でのできごと。
どんな危険があるか、考えながら見てみよう。



次に動画を見ながら考えよう！
動画の中の大切なシーンをチェック。
見たあとは、下の「学習のポイント」も確認しよう。



※動画を流していると自動で設問がでできます。
適時、停止、再生ボタンを押しながらご利用下さい。

5-2 みんなで考えよう③

「海でのできごと」


～指導される方へ～

「指導される方へ」をタップすると、画面が変わります。子どもたちへの「指導上の留意点」が記されています。指導される方は事前にココを読んでおくことをおすすめします！



溺れている人に対し、掴まれるものを差し出す救助方法が「リーチ」です。

溺れている人は、差し出された物に対してものすごい力でつかまります。救助者が水中に転落することなく、差し出したものを離さないようにするために、腹ばい姿勢になると安全です。



学習のポイント

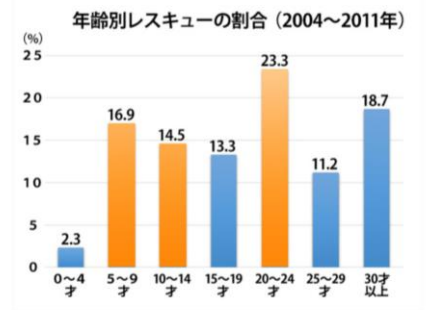
～指導上の留意点～

動画のチェックポイントは、どのような問題があったのかを見ていきます。内容を確認できたら、以下の点も補足しましょう。

 <p>海の状況</p> <p>うみ じょうきょう 海は、どこまで安全な海だね。いつも同じかな？</p>	 <p>遊泳エリア</p> <p>ゆうえい 橋付近は泳ぐ場所が狭いので、遊泳禁止です。</p>	 <p>さん橋で危険な場所</p> <p>さんきょう さん橋で、とくに危険な場所は、どこかな？</p>	 <p>うき具として使える物はあるか？</p> <p>うきもの この画面の中の物で、うき具として使える物はどれかな？</p>
 <p>リーチとは</p> <p>つかまることのできるものを差し出すときに、安全な姿勢は？</p>	 <p>スローとは</p> <p>ペットボトルは、どうして遠くまで飛ばなかったんだろう？</p>	 <p>うきもの受け取ったら</p> <p>ペットボトルを受け取ったら、どんな体勢になればいいかな？</p>	
 <p>ライフジャケット</p> <p>ライフジャケットを着ているのに、どうしておぼれそうになっているの？</p>	 <p>ライフセーバー</p> <p>ライフセーバーって、どういう人が知っている？</p>	 <p>おぼれる原因</p> <p>海でおぼれるおもな原因ってなんだろう？</p>	

ライフセーバーによるレスキューの割合を年齢別にみると、20代前半と小・中学生の子どもに事故が多く発生しています。

海で何かあった際には、自分たちだけで何とかしようとせず、迷わずライフセーバーに伝えることが大切です。



年齢	割合 (%)
0～4才	2.3
5～9才	16.9
10～14才	14.5
15～19才	13.3
20～24才	23.3
25～29才	11.2
30才以上	18.7



「話し合ってみよう」

話し合ってみよう

動画から学んだことを参考にして、話し合いで学習を深めよう。

海水浴に行くとき、安全に楽しく過ごすためには、どのような事前準備が必要でしょうか。

海で遊ぶとき、どのようなことに注意しながら活動することがのぞましいでしょうか。

海や川などで起きる水の事故を減らすための標語を、考えてみましょう。



制作協力：学研ブ

監修：中野 浩一

「海でのできごと」を見て学んだことを参考にして、話し合いをしてみよう。

海で遊ぶ上での“そなえ”となる実践的な知識を身に付けるためには、想像することや他の人の経験談を聴くことも大切だよ！



バトちゃん



5-2 みんなで考えよう⑤ ~あらすじ~



2020
New!

「離岸流って？」



まずは6分21秒
の動画を通して
見てみよう！



まずは全体とお
み
まずは全体を通して見てみよう！

ビーチボールで遊んでいたら、風に流されてしまいました。
ボールを追いかけると、そこは離岸流でした。どんな危険があるか、考えながら見てみよう。

夏のある日、家族で海水浴を楽しんでいました。その日は風が強く吹いており、パラソルやボールが飛ばされてしまうことも・・・



かいち君は風で流されたビーチボールを泳いで取りに行ってしまう。追いかけた先は沖への流れに続く離岸流だったので。



両親が必死で戻るように声をかけますが、必死に泳ぐかいち君には届きません。そこにライフセーバーが来て救助へ。



ビーチボールを追いかけることをあきらめたかいち君。離岸流の流れに逆らって懸命に泳ぎ、浜へ戻ろうとしているところにライフセーバーが。



かいち君はライフセーバーに助けもらったお礼と、自分が泳いでもなかなか戻れなかったことを話すと、ライフセーバーは...



「離岸流って？」

2020
New!

次に2つ目の動画を見てみよう。
同じ動画の中に9の設問があるよ。
考えたり、意見を出し合ったりした
後は、解説を見て学びを深めよう!

学習のポイントは9個!

すべて解説付き!

みんなが考える! 離岸流ってなに? 指導される方

「離岸流ってなに?」

まずは全体を通して見てみよう!

ビーチボールで遊んでいたら、風に流されてしまいました。
ボールを追いかけると、そこは離岸流でした。どんな危険があるか、考えながら見てみよう。

動画を見よう!

つぎ 動画をみながら考えよう!
動画の中の大切なシーンをチェック。
見たあとは、下の「学習のポイント」も確認しよう。

離岸流って何だろう?



離岸流とは、沖に向かう流れのことで、海水浴場におけるおぼれ事故の原因の約半数をしめます。ライフセーバーはいち早く救助に向かう手段として、この離岸流を利用することがあります。

おぼれの原因

離岸流	45%
波にまかされる	9%
風に流される	24%
岩礁	6%
その他	13%
船・遊艇にまかされる	6%

JLA ANNUAL REPORT 2019

離岸流を見分けるにはどうしたらいいの?



離岸流のある場所の持ちよう

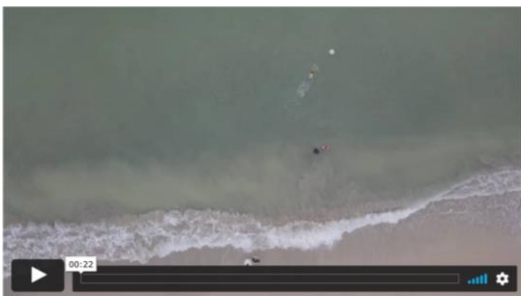
波がくずれにくい
海水の色が他とちがって、にごっている
ゴミが集まりやすい

※動画を流していると自動で設問がでてきます。
適時、停止、再生ボタンを押しながらご活用下さい。



「離岸流ってなに？」

沖へ流れたビーチボールやフロートを取りに行く行為は、大変危険であることを理解させてください。たとえ追いついたとしても、手はふさがり、脚しか動かすことができない中、浜へ戻ってくることは困難であると知り、「無理に追いかけない」と判断できるようになってもらいたと思います。



学習のポイント

～指導上の留意点～

動画のチェックポイントは、どのような問題があったのかを見ていきます。

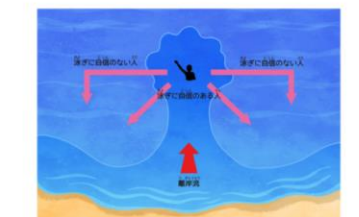
内容を確認できたら、以下の点も補足しましょう。

 <p>あんぜん、あそぶ、うみ、ついでに 安全に遊ぶために海に着いたらまず何をしたらよいか？</p>	 <p>ひ、かぜ、じょうたい この日の風の状態から、どのようなことが考えられる？</p>	 <p>と パラソルが飛ばされるとどんなことが起こるかな？</p>	 <p>りがんりゅう、なに 離岸流って何？</p>
 <p>もしもビーチボールにたどり着いていたらどうする？</p>	 <p>りがんりゅう、なが 離岸流の流れってどれくらい速いの？流れはどこまで続いているの？</p>	 <p>りがんりゅう、みわ 離岸流を見分けるにはどうしたらいいの？</p>	 <p>あのビーチボールはどうなってしまうの？</p>
 <p>うみ、はい、また、かぞく、ともだち 海に入る前に家族やお友達と約束事を！どんなことが考えられるかな？</p>			

「指導される方へ」をタップすると、画面が変わります。子どもたちへの「指導上の留意点」が記されています。指導される方は事前にココを読んでおくことをおすすめします！



実験映像を通じて正しい理解を深めましょう。離岸流（リップカレント）は、リップヘッドで流れが拡散するので、パニックを起こさず（Don't Panic）、落ち着き（Stop）、考え（Think）、行動する（Act）ことを心掛けるよう伝えてください。 ※離岸流については事前学習【海編】、クイズ【上級編】で詳しく学ぶこともできます。





「話し合ってみよう」

話し合ってみよう

動画から学んだことを参考にして、話し合いで学習を深めよう。

海水浴場において、海に入る直前にしておくよ
い心構えやそなえ行動をみんなで確認し合いましょ
う。

離岸流にはどのような危険があるのか？また危険
を避けるために離岸流の見分け方や、離岸流に流
されてしまったとしたら、どのような行動をとるべ
きかをみんなで考えてみましょう。

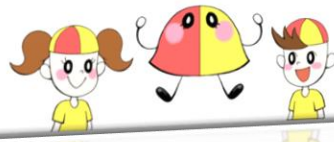
海浜で安全に楽しく過ごせるための効果的な「ピク
トグラム」を考え、作成してみましょう。

「離岸流ってなに？」
を見て学んだことを参
考にして、話し合いを
してみよう。

海で遊ぶ上での
“そなえ”となる実践的
な知識を身に付けるた
めには、想像すること
や他の人の経験談を聴
くことも大切だよ！



2020
New !

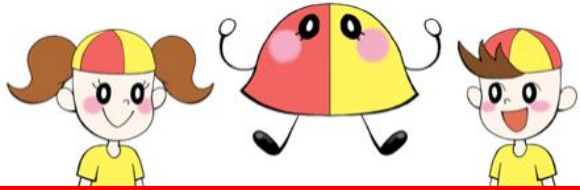


安全なプール活動



「安全なプール活動」では、6点の動画が解説付きで見れるよ！

学習指導要領にある「**水泳運動の心得**」についての学びを深め、プール活動を始める上でのガイダンスとしても利用できるよ！



安全に活動するために

バディ



水辺で活動をするときは、常に二人組で安全を確認しあう

あんぜん かつどう
安全なプール活動

たす ほうほう
助かる方法

たす ほうほう
助ける方法

じっけんどう が
実験動画



あんぜん みず はい かた
安全な水への入り方

スライドイン



あんぜん みず はい かた
安全な水への入り方

スリッピン



あんぜん みず はい かた
安全な水への入り方

ステップイン

この動画は授業における児童、生徒に実施させることを推奨しているものではありません。先生方や指導者がプール内の異常等に気づいた際、安全かつ迅速に入水する方法の一つとして紹介しています。



あんぜん みず あ かた
安全な水からの上がり方

ひとり あ ばあい
1人で上がる場合



あんぜん かつどう
安全に活動するために

バディ

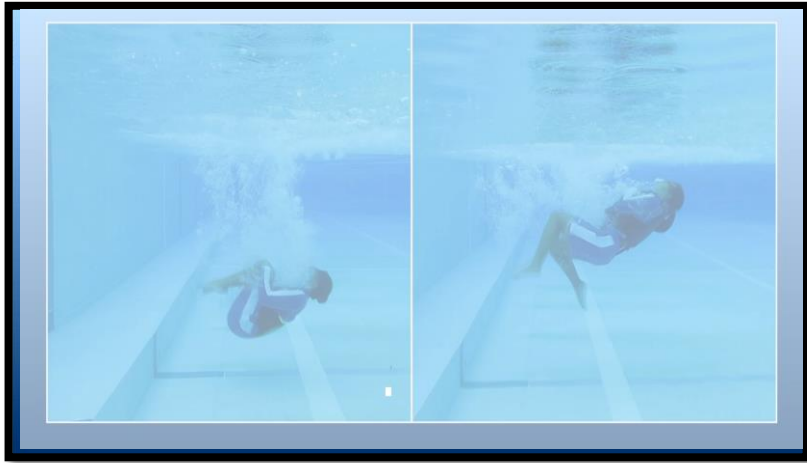


あんぜん みず はい かた
安全な水への入り方

スライドイン

この動画は授業における児童、生徒に実施させることを推奨しているものではありません。先生方や指導者がプール内の異常等に気づいた際、安全かつ迅速に入水する方法の一つとして紹介しています。

助かる & 助けるテクニック



助かる方法			助ける方法		
① 浮く 基本姿勢	② 浮く 応用姿勢	③ 浮く 落水からの浮き身	ライフジャケットの有無による落水のちがひ	水中でのライフジャケットの着方	体力の消費を節ぐ安全な泳ぎ方 ライフセービングバックストローク
④ 長く浮いていられる方法	⑤ 長く浮いていられる方法	立ち泳ぎ スカーリング/巻き足	複数人で救助を待つ方法① ハドルポジション	複数人で救助を待つ方法② 波や風に背を向ける	レスキューチューブを渡されたら

水辺での安全テクニックや溺れないための方法を動画を通じて理解を深める。

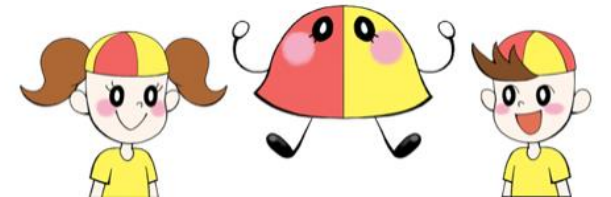
★新学習指導要領

小「安全確保につながる運動」
中「水辺の事故防止に関する心得」

「助かるテクニック」では、15点の動画が解説付きで見れるよ！

「Swim&Survive」の具体的な方法をまずは頭でイメージすることが大切なんだ。

水の中の様子もわかるから、是非実技で挑戦してみてね！



助かる & 助けるテクニック

水辺での安全テクニックや溺れないための方法を動画を通じて理解を深める。

★新学習指導要領

小「安全確保につながる運動」

中「水辺の事故防止に関する心得」

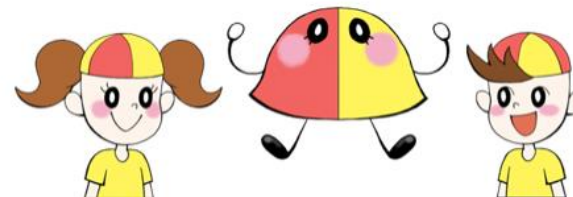


助かる方法		助ける方法	
			
水に入らないで救助する方法 声をかける (トーク)	水に入らないで救助する方法 手を差し出す (リーチ)	水に入らないで救助する方法 物を投げ入れる (スロー)	
			
水に入らないで救助する方法 ロープを投げ入れる	安全な水からの上げ方① 補助を必要とする場合 (スターアップ・リフト)	安全な水からの上げ方② 補助を必要とする場合 (アンダーアーム・リフト)	



「助けるテクニック」では、6点の動画が解説付きで見れるよ！

万が一、溺れている人を発見した時、水の中に入らないで助けることが鉄則。ライフセーバーの救助技術の中から、みんなにも知っておいてもらいたいことを選んで紹介しているんだ。



実験動画

あんぜん かつどう 安全なプール活動

たす ほうほう 助かる方法

たす ほうほう 助ける方法

じっけんどう が 実験動画

おお 大き なうき 具 からの 落水 の危険

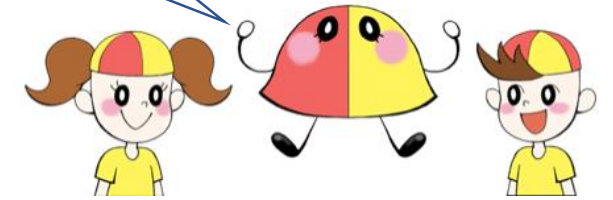
おおが た ぐ らく すい きげん 大型うき具からの落水の危険

り がんりゅう ちょう さ よう す 離岸流 調査の様子



「実験動画」では、リアルな危険や現象を可視化することで、より正しい理解を深めることにつながるんだ。これからももっと増えていくよ！

2020
New !



おお 大き なうき 具 からの 落水 の危険

© 2020 Japan Lifesaving Association, Chuo Univ.



り がんりゅう ちょう さ よう す 離岸流調査の様子

▶▶ 早送り

せんりょう なが み 染料の流れが見えるところは、まわりよりも深く水が多いため 波がくずれにくくなります

© 2020 Japan Lifesaving Association, Chuo Univ.



5-4 クイズ！水辺の安全って？

2020
New!
上級編

10問正解すると・・・

プールや海における安全に関する知識や、事故防止策を軸としたクイズだよ。今までの学びを確認しながら、新しい知識も得られるから、是非挑戦してみてね！



5-5 資料集



事前学習 みんなで考えよう! 動画で学ぼう! クイズ! 水辺の安全って? **資料集** 応援メッセージ



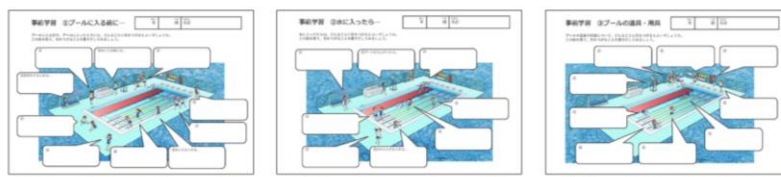
指導案

ウォーターセーフティプログラム



①ビート板クルージング ②ライフジャケット ③浮き方とライフセービングバックストローク ④着衣泳体験と着衣浮き ⑤ペットボトル浮きと水に入らない救助法 (スロー)

ワークシート



事前学習シート ①プールに入る前に... (1枚) 事前学習シート ②水に入ったら... (1枚) 事前学習シート ③プールの道具・用具 (1枚)



事前学習シート 海編 (2枚) 事前学習シート 川編 (2枚)

**2020
New!**

【指導案】

指導される方がプログラムを構築する上で参考となるウォーターセーフティの指導案がPDFで引き出せるようになっています。主に小学校や中学校の水泳授業などで活用できます。

- ①ビート板クルージング
- ②ライフジャケット
- ③浮き方とライフセービングバックストローク
- ④着衣泳体験と着衣浮き
- ⑤ペットボトル浮きと水に入らない救助法 (スロー)

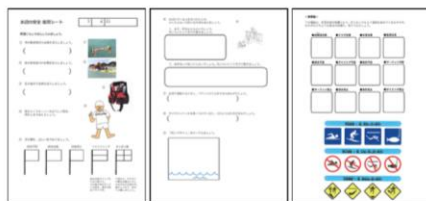
【ワークシート】

主に「事前学習 プールに入る前に…」や「みんなで考えよう! 海のできごと」で活用できるワークシートがPDFで引き出せるようになっています。子ども達が理解しながら書いていくことで、学びを深め、記録(記憶)として残すことができます。



水辺の安全 総合確認シート (1枚)

海のできごと確認シート (4枚)



水辺の安全 復習シート (3枚)

【その他資料】

ライフセービングに関連する資料、資格のことについてやテキスト、動画などがラインナップしてあります。子ども達の興味関心をさらに深めることができます。

関連資料



授業等で活用できる資料や映像がたくさん!
是非、活用、視聴してみてくださいね!



**2020
New!**

5-6 応援メッセージ



公益財団法人 日本財団
常務理事 海野 光行

親から子へ、子から孫へ、何世代も引き継がれてきた私たち日本人の海への想いが、近年、海難れという形で崩壊しかけています。海に行きたくないという気持ちも、海に抱く消極的なイメージも、子どもの頃の原体験が強く影響していると考えられます。海辺で怖い思いをした子どもたちが、海を好きになれるはずがありません。子どもの水難事故が毎年多発する中、子どもたちが安心して海を楽しむために、水辺の安全教育を浸透させることは、日本人の豊かな海への関わりを導くことでしょう。子どもの未来、海の未来を守るため、今後も日本ライフセービング協会の活動を応援して参ります。

※JLA e-Lifesaving ~Swim&Survive~は子ども達への水辺の安全 ICT教育プログラムとして、日本財団 (https://www.nippon-foundation.or.jp/) の助成により開発されました。

<五十音順>



公益財団法人日本水泳連盟
会長 青木 剛

日本水泳連盟は、水泳の普及目標を「国民皆泳」と位置づけています。日本の国民全員が泳げるようになり、健康保持・増進を図るとともに、泳げないことで命を落としたり、溺れている人を助けられないことがないようにという、とても大きな目標です。泳げることは自分の命を守ること、そして他人の命を救うことに繋がっています。多くの子供たちが水辺の安全教育に触れ、正しい知識と技能を身に付けることは素晴らしいことです。日本から水難事故がなくなることを願っています。



公益社団法人日本トライアスロン連合
会長 岩城 光英

私ども公益社団法人日本トライアスロン連合では、全国の約37.5万人のトライアスロン愛好者のために各地で年間350近くの大会・事業を開催しています。1974年に誕生したトライアスロンはスイム・バイク・ランを続けて行う競技です。中でもスイムではライフセーバーの皆様のご協力をいただきながら、水の事故や怪我が発生しないよう安心安全な大会運営を心掛けていますが、様々な自然条件で行われる競技のため、各参加者が自分自身の体調と向き合い、心身共に万全の準備をした上でレースに参加することを願っています。それには、まず正しい知識を身に付けることが大事です。これからの若い選手や愛好者の皆さんが、泳ぐ際に知っておくべき事柄を本教材できちんと学んでいただくことを期待します。



NPO法人 川に学ぶ体験活動協議会
代表理事 久住 時男

RAC (NPO法人川に学ぶ体験活動協議会) では長年に渡り、川で安全に且つ楽しく活動できるよう行政とも連携しながら川の指導者を育成してきました。それら全国約4000名の指導者が、それぞれの地域の川で活動を行っています。しかしながら、毎年、夏場になると悲しい水難事故のニュースが聞こえてきます。川で遊ぶ時に川の安全管理を知っていれば事故は防げたかもしれません。ライフジャケットの着用もその一つで、RACではその普及に努めています。また、川での安全管理ができる指導者の育成、各地域での水辺の安全講習などを展開して参ります。川は正しく安全に管理をすればとても素晴らしい学びのフィールドです。1人でも多くの人が川で楽しんで活動をしていただければと思っています。



中央大学
教授 博士 (救急救命学) 小峯 力

我が国の水泳教育は、泳げる技能に力点が置かれてきました。海外の水泳教育は、まずは溺れない技能に焦点をあて、事故防止の為のセルフサバイバル教育に力を注いでいます。今日、文科省「学習指導要領」では、自然との関わりを深める「水辺活動」への広がりを謳い、着衣泳等の自助安全を導入しています。一方、東日本大震災 (大津波) や、近年の自然災害のエネルギーを鑑みれば、これまでの安全基準をはるかに超える備えは自明です。救急教育学を専門とする立場より、その生命倫理の根拠は「生き抜く力」です。つまり危機本能の主体性です。本教材はその主体性を育むに相応しい理念と実践です。自助、共助、そして公助への展開・発展を願っています。



初代スポーツ庁長官 鈴木 大地

水泳は命を守ることができるスポーツです。日本では多くの学校にプールが整備され、水泳の授業は必ず受けることになっています。学校での水泳の授業を通して、全ての国民に泳ぎをマスターしてほしいと思っています。その上で、プールでの水泳だけでなく、海や川などの自然とのふれあいの中で、安全に楽しく泳いだり、遊んだりすることができるよう、水辺での事故を防止するための知識や技能を身に付けることが大変重要です。この教材を用いて、緊急時に行うべき行動などを学ぶことで水辺の安全確保が図られ、一人でも多くの子供たちの命を守ることにつながることを願っています。



公益財団法人 河川財団
理事長 関 克己

河川財団では、子どもたちが伸び伸びと川に触れ合うことができる体験活動への支援や河川や水に関する河川教育の普及に取り組んでおります。私たちの身近にある川は、自然がいっぱいで大変魅力的な空間です。そして、遊びの場でもあり、学びの場でもあります。しかしながら、水辺のシーズンになると繰り返されるのが水難事故です。水に関わる子どもの事故の多くが川や湖で起こっています。この水難事故を未然に防ぐためには、川や水辺に潜む様々な危険性を知り、事前の準備と、活動時の安全管理を怠らないことが極めて重要です。川や水辺での活動をより安全で楽しいものとするために、保護者・団体・学校関係者など、より多くの方々に活用いただける教材や情報の提供に努めてまいります。



「子どもたちにライフジャケットを！」
代表 ライフジャケットサタ 森重 裕二

「ライフジャケット」が、水辺の子どもたちを見守る時のアタリマエの選択肢の1つになることを願って、ひたすら発信を続けています。活動を続けてきて感じているのは、怖いのは「知らない」ということ。安全性を飛躍的に高める「ライフジャケット」のことや、水辺の安全について、みんなが学ぶことができれば、水辺の事故のほとんどは予防することができる…と信じています。守ることができる命があります。この素晴らしい教材が多くの学校や家庭で活用され、子どもたちにとって水辺が安全で楽しい場所になることを心から願っています。思いはただ1つ…子どもたちの命を守ること。



NPO法人海さくら
理事長 古澤 純一郎
公式ホームページはこちら

NPO法人海さくらは、2005年から「目指せ！日本一楽しいごみ拾い」を合言葉に神奈川県江の島を中心に活動をしております。2017年に江の島片瀬東浜に「釘のない海の家」を海と日本プロジェクトの一環で日本財団様と共に建築し、海岸の釘を減らし、浜全体で安心安全な海にしようとする活動の中心的な役割をはたすようになってきました。その中でJLAの皆様と共に活動する機会も増え、色々と活動を共にさせていただいております。これからも、皆様と力を合わせ、海に笑顔が広がるように活動していきたいと思っています。全力でいきたいと思います！！



一般社団法人吉川慎之介記念基金
代表理事 吉川 優子

私の息子の慎之介は、幼稚園のお泊り保育で行われた水遊び中に、川の増水によって流され亡くなりました。私たちは、事故の教訓をいかすための活動を続けています。悲しい事故を防ぎ、子どもたちに豊かな経験をさせてあげるためには、予防についての正しい情報や知識を共有することが重要です。予防と安全を理解することは、命を守ること=生きる力を身につけるための大切な学びであり、子どもの可能性を広げることでもあるのです。水辺には、楽しい体験や学びが沢山あります。大人も子どもと一緒に、水辺の活動を通じて、成長へのチャレンジを重ねてほしいと思います。水辺の事故ゼロをめざして。日本ライフセービング協会の活動を応援します。




公益財団法人日本ライフセービング協会
理事長 入谷 拓哉

海やプールは、子供たちにとって最高の遊び場です。誰もが笑顔になれるこの水辺は、我々の生活の中でも身近にあるものです。しかしながらこの水辺では、残念ながら命を落としてしまうほどの事故につながることもあります。こういった事故を未然に防ぐために必要なことは、水辺の危険について知っておくことが重要であり、この知識を持った上で水辺でのさまざまな体験を踏まえて生きる力を身につけることが最も効果的になります。我々日本ライフセービング協会は、理念を共にする様々な団体様と共に、水辺の安全に関する教育を正しく広めると共に、水辺の事故ゼロをめざした活動を続けてまいります。

※水辺の尊さとその安全についての願いをメッセージとしてお寄せいただきました。指導される大人の方々の心構えやモチベーションとして、大変学び深いものです。今後もさらにその輪を広げていきたいと考えております。

6, e-Lifesaving の制作計画

制作Stage	 <h3>e-Lifesaving 制作計画</h3>	周知、連携	目標達成値
Stage1 (2019)	e-Lifesaving制作 事前学習（プール編）／動画で考えよう！（海でのできごと）／実践動画集（助かる、助けるテクニック）クイズ初級編、中級編／資料集／応援メッセージ	スポーツ庁 教育委員会への周知	
Stage2 (2020)	レスポンス対応／以下追加項目…事前学習「海編」「川編」／動画で学ぼう！「実験動画」／クイズ！水辺の安全って？「上級編」／資料集ワークシート「海編」「川編」／関連資料「ANNUAL REPORT2019」更新／海岸利用啓発ポスター／ジュニアライフセービングカルタ／水辺の安全ハンドブック、川遊び安全ノート「えんじょいりバー」／今すぐ授業に導入できる！水辺の安全教育（撮影、編集、YouTube動画掲載）／安全な川遊びのために（子ども向け）（指導者・保護者向け）／水辺の事故を減らすために、今できること／海さくらゴミ拾い～LIFESAVER BEACH CLEANの巻～／海なし県なのに海ゴミ対策！？／ライフセーバーが教える水辺の事故の防ぎ方／応援メッセージに各団体のHPリンク／「みんなで考えよう」離岸流動画、学習のポイント、指導される方へ	私学教員研修導入（東京都） コロナ禍でのオンラインセミナー実地 河川財団、吉川慎之介記念基金 連携協力 文部科学省HP掲載	3万ユーザー 25万PV【実績】
Stage3 (2021)	制作予定：「みんなで考えよう」118番通報！？／教えて！ライフセーバー Youtube制作 e-Lifesaving内資料集へリンク／「動画で学ぼう」118番通報（シミュレーション）／実験映像追加数点／各種資料集追加数点／応援メッセージ2～3名追加／各団体にバナー掲載の依頼／出張授業アポイントシステム試験運用／アンケート協力のおねがい／実践事例集積み上げ	海上保安庁連携（動画共同制作、Water Safety Guide掲載） スポーツ庁4月全国の学校対象とした通知内容に盛り込む スポーツ庁、消費者庁、海上保安庁SNSを通じた広報活動	20万ユーザー 160万PV
Stage4 (2022)	制作予定：「みんなで考えよう」この旗があがったら…（津波フラッグ）／事前学習（防災編）／ライフセーバーのいる海水浴場200か所紹介／水辺って楽しい！！～遊び方ガイド～／実験映像追加数点／各種資料集追加数点／応援メッセージ2～3名追加／クイズ！水辺の安全って？「防災編」 出張授業アポイントシステムの本格運用（実践事例集とともに）	気象庁連携（動画共同制作）、 海上保安庁、スポーツ庁教育連携（全国の小中学校での授業展開）、実践事例を交えた広報	50万ユーザー 400万PV
Stage5 (2023)	制作予定：「みんなで考えよう」あなたならどうする？（応急手当～心肺蘇生とAED～）／事前学習（応急手当編）「動画で学ぼう」119番通報（シミュレーション）／「動画で学ぼう」BLS、AED音声ガイダンス、FA身近なもので助けよう／実験映像追加数点／各種資料集追加数点／応援メッセージ2～3名追加／クイズ！水辺の安全って？「応急手当編」	消防庁連携（動画共同制作）、 海上保安庁、スポーツ庁教育連携（全国の小中学校	100万ユーザー 800万PV

7, e-Lifesaving の完成イメージ

The screenshot shows the e-Lifesaving website with the following elements and annotations:

- Header:** e-Lifesaving logo, navigation menu (事前学習, みんなで考えよう!, 動画で学ぼう!, クイズ!水辺の安全って?, 資料集, 応援メッセージ), and logos for Swim & Survive and the Japan Sea Project.
- Main Content:**
 - 事前学習 (Pre-learning):** Includes buttons for プール編 (Pool), 海編 (Sea), 川編 (River), 防災編 (Disaster), and 応急手当編 (First Aid).
 - みんなで考えよう! (Let's think together!):** Includes buttons for 海でのできごと (Incidents at sea), 離岸流ってなに? (What is a rip current?), 119番通報!? (119 call!), この旗があがったら? (What if this flag goes up?), あなたならどうする? (What would you do?), and 学校で! 家庭で! (At school! At home!).
 - 動画で学ぼう! (Learn with video!):** Includes buttons for 安全なプール活動 (Safe pool activities), 助かる方法 (How to be saved), 助ける方法 (How to help), and 実験動画 (Experiment video).
 - クイズ!水辺の安全って? (Quiz! Water safety):** Includes buttons for 初級編 (Beginner), 中級編 (Intermediate), 上級編 (Advanced), 防災編 (Disaster), and 応急手当編 (First Aid).
- Annotations:**
 - Green boxes: 授業・講演依頼 (Lecture/Invitation), 実験動画 + α (Experiment video + α).
 - Yellow boxes: ライフセーバーのいる海水浴場 (Water park with lifeguards), YouTube動画 → e-Lifesavingリンク 「教えて!ライフセーバー」海編 (YouTube video → e-Lifesaving link "Teach me! Lifesaver" Sea edition), YouTube動画 → e-Lifesavingリンク 「教えて!ライフセーバー」スポーツ編 (YouTube video → e-Lifesaving link "Teach me! Lifesaver" Sports edition), YouTube動画 → e-Lifesavingリンク 「教えて!ライフセーバー」FA/BLS編 (YouTube video → e-Lifesaving link "Teach me! Lifesaver" FA/BLS edition), みんなで考えよう「字幕」「英訳機能」 (Let's think together "Subtitles" "English translation function").
 - Orange boxes: 実験動画 + α (Experiment video + α), アンケート協力のおねがい (Request for survey cooperation).
 - Blue box: 活用ガイド (Usage Guide).

Stage3 (2021)

Stage4 (2022)

Stage5 (2023)

みんなで考えよう「字幕」「英訳機能」

みんなで考えよう「字幕」「英訳機能」

みんなで考えよう「字幕」「英訳機能」

YouTube動画 → e-Lifesavingリンク
「教えて!ライフセーバー」海編

YouTube動画 → e-Lifesavingリンク
「教えて!ライフセーバー」スポーツ編

YouTube動画 → e-Lifesavingリンク
「教えて!ライフセーバー」FA/BLS編

実験動画 + α

実験動画 + α

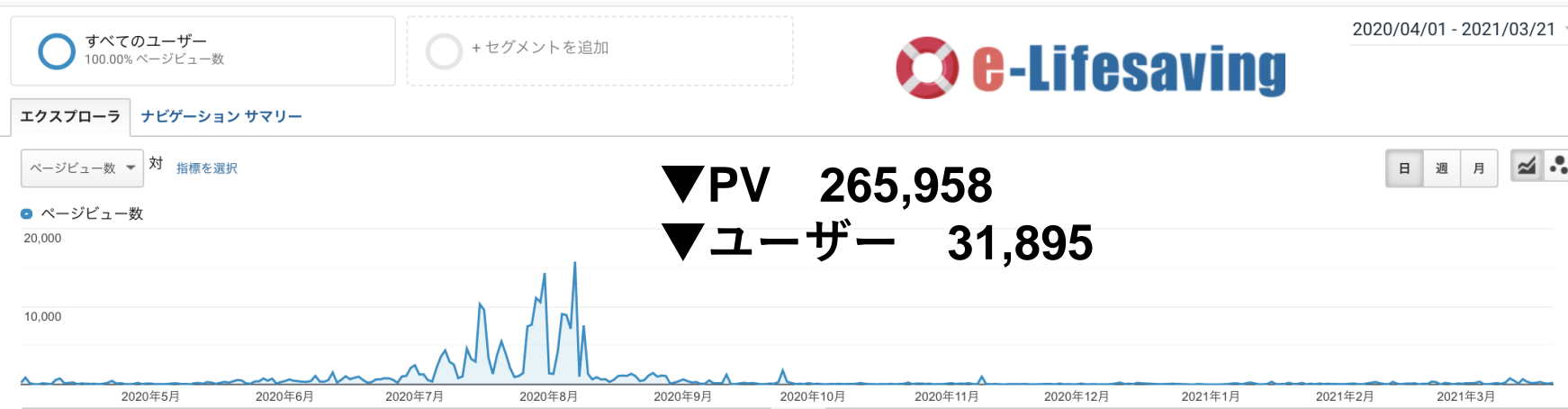
実験動画 + α

水辺って楽しい!
～遊び方ガイド～

アンケート協力
のおねがい



8, e-Lifesaving の視聴分析①



- 4/9 e-Lifesaving公開告知 HP・Facebook・twitter・Instagram
- 4/15 公開告知メディア向けPR TIMESによるメディアリリース
- 5/21 YouTube・FB・twitter・InstagramへPR動画挨拶投稿
- 5/25 YouTube・FB・twitter・InstagramへPR動画学校編投稿
- 6/4 YouTube・FB・twitter・InstagramへPR動画友達編を投稿
- 6/13 YouTube・FB・twitter・InstagramへPR動画お家編を投稿
- 6/14 セミナー実施&FB投稿→取材受有 (NHK/朝日新聞/愛媛新聞/ビーパル)
- 6/19 神奈川県との包括協定記者発表
- 6/22 セミナーの募集告知Facebook投稿
- 6/28 セミナー実施
- 7/5 WEBソーシャルインベションニュース掲載
- 7/6 7/5メディア掲載記事をFacebookへシェア
- 7/8 SUBARUライフセーバーカー引き渡し式でメディアへe-Lifesavingを呼びかけ
- 7/9 e-Lifesavingの活用事例をFacebookへ投稿
- 7/9 オンラインセミナーの募集告知をFacebookへ投稿
- 7/10 YouTube必見!夏休み前に、今すぐ授業に導入できる! 水辺の安全教育 公開
- 7/13 神奈川県教育委員会 包括協定「教育」挨拶
- 7/14 都道府県ライフセービング協会・加盟クラブ・指導員へ e-Lifesaving活用強化を通知
- 7/16 7/9 Facebookオンラインセミナー募集告知を広告シフト (~7/19まで)
- 7/17 他団体リリース【京都府LS協会】海上保安庁第8管区・メルマガ【BLUE SHIP】
- 7/21 京都府LS協会が地元キー局TVでe-LifesavingPR
- 7/23,24 海の日企画 ウェブセミナー
- 7/26 西条市子ども安全ウェブセミナー
- 7/31 朝日新聞記事掲載
- 8/1 スイミング教室・クラブでの公開授業@稲城 朝日新聞全国版カラー広告 朝刊
- 8/3 スイミング教室・クラブでの公開授業@堀之内 『海さくらチャンネル』より配信
- 8/5 日本臨床救急医学会にて発表
- 8/8 幼稚園保護者対象 オンラインセミナー実施
- 8/9 スイミング教室・クラブでの公開授業@八王子
- 8/10 スイミング教室・クラブでの公開授業@調布
- 8/13 オンラインセミナーの募集告知と川編公開をFBへ投稿
- 8/21 河川財団共催オンラインセミナー
- 8/22 オンラインセミナー実施とNHK取材記事シェアをFBへ投稿
- 8/23 e-Lifesavingの活用事例をFacebookへ投稿 スイミング教室・クラブでの公開授業@藤沢
- 8/24 e-Lifesaving<川編>公開告知 PR TIMESによるメディアリリース・河川財団様との共同リリース
- 8/25 e-Lifesaving<川編>公開告知 HP・FB・twitter・Instagram
- 8/26 平塚市立真土小学校出前授業
- 9/26 日本子ども安全学会にて講演

9, e-Lifesaving に関連する活動 JLA HP,Facebookより



【文部科学省 田野瀬副大臣を訪問】



【スポーツ庁 室伏広治長官を訪問】

自見はなこ議員のご紹介を賜り、文部科学副大臣 田野瀬太道議員と面会の機会をいただきました。冒頭、きっかけを作ってくださった一般社団法人吉川慎之介記念基金の吉川優子代表理事から、「水辺の事故予防については、子どもをはじめとし、指導者や大人への啓発も重要」との説明がなされました。続いて、JLA副理事長の松本貴行（教育担当、現役の保健体育教諭）より、学校教育における水辺の安全教育の現状と課題をお伝えし、これらを解決するためのICT教材であるe-Lifesavingの紹介をさせていただきました。田野瀬副大臣からは、e-Lifesavingの完成度に感嘆の声をいただき、文部科学省のホームページ内に水辺の安全教育に関するページ設定をしていきたいという声もいただきました。日本国内の学校教育の根幹を担う文部科学省との連携は、水辺の安全教育を広く国民に伝えていく上で必要不可欠です。JLAは今後とも同省との情報交換を強化し、水辺の事故ゼロをめざして参ります。

はじめに入谷理事長より、水辺の事故ゼロをめざして協会が活動している事業を紹介。続いて松本副理事長よりWEB教材『e-Lifesaving』を紹介し、スポーツ庁から積極的に『e-Lifesaving』活用の後押しがいただけるよう、お願いいたしました。室伏長官は身近に水の事故に遭われた方がいらしたようで、水辺の安全について大変熱心に傾聴くださり、水辺の事故防止に有効なコンテンツであると評価をいただきました。海や川などの水辺から遠ざかるのではなく、どうすれば安全なのかを事前に知ることが重要なのだということに共感をいただき、ライフセーバーの活動へ熱いエールもいただきました。